Apricot

Ⅱ

使用の手びき

型式：Computer 9790
（9700シリーズ）

SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

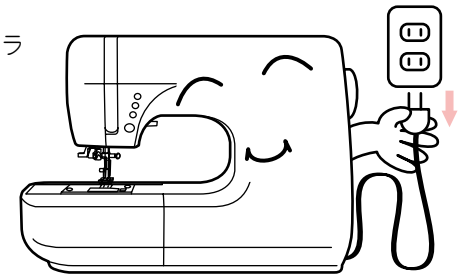
このたびはシンガーミシンをお買いあげいただきましてありがとうございます。
このミシンは、高性能で非常に使いやすく出来ております。
また、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、装飾模様や文字ぬい、ボタンホールぬいなどが簡単にぬえる家庭用コンピュータミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」は、保証書とともに大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

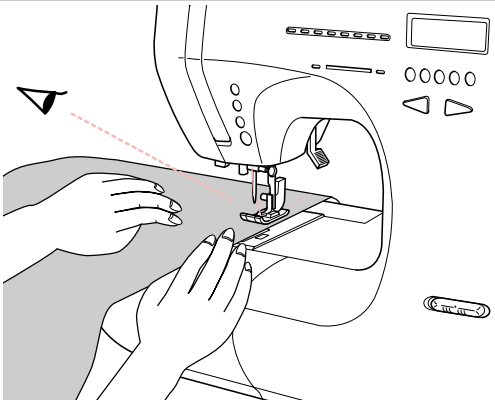
⚠ 警告　感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
   ・ミシンのそばを離れるとき。
   ・ミシンを使用したあと。
   ・ミシン使用中に停電したとき。



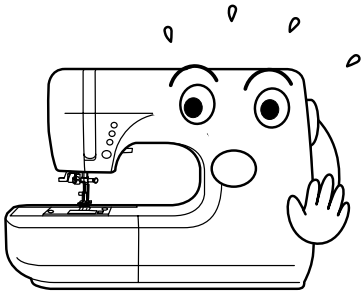
⚠ 注意　感電、火災、けがなどの原因となります。

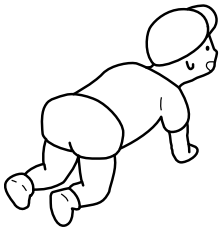
1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。



シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

3. 曲がった針はご使用にならないでください。
4. 裁縫中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
5. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。

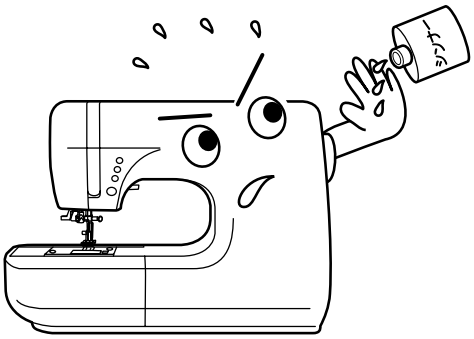




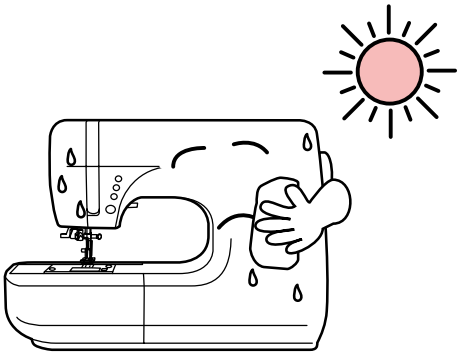
6. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
   - 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
   - ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください。）
   - 「使用の手びき」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
   - 原則として上糸、下糸を交換するとき。
7. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または「お客様相談係」（裏表紙参照）にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。
   - 正常に作動しないとき。
   - 落下などにより破損したとき
   - 水に濡れたとき。
   - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
   - 異常な臭い、音がするとき。
8. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

ミシンの取り扱い

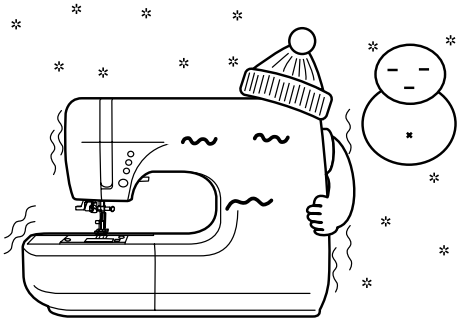
- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
  汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



- 直射日光に当てたり、高温多湿のところには置かないでください。



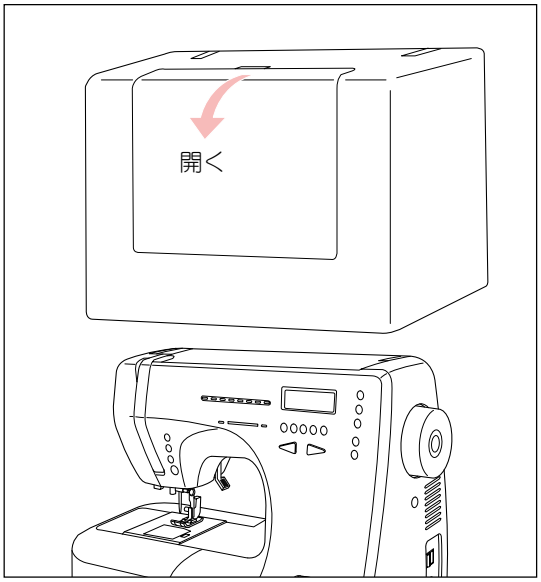
- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
  時間がたてば正常に作動するようになります。
  保管は、なるべく寒いところをさけてください。



ミシンカバー

ミシンカバーは、ミシンのハンドルを倒したままかぶせます。
ミシンカバーの扉を開くと、この手びきがしまえるようになっています。

ミシンカバーをふくときは、きれいなやわらかい布をお使いください。



もくじ

始めに

安全にご使用いただくために .. 表紙裏
ミシンの取り扱い 2
ミシンカバー 2

各部の名称とはたらき

各部の名称 4
電源の入れ方 6
各部のはたらき 7
　スタート・ストップボタン 7
　糸切りボタン 7
　針上下・クイックスローボタン 7
　返しぬいボタン 7
　押え上げレバー 7
　スピード調節つまみ 7
補助テーブル・付属品 8
　補助テーブルのはずし方 8
　補助テーブルのあけ方 8
　付属品 8
針の取りかえ方 9
押えの取りかえ方 9

上糸・下糸の準備

下糸の準備 10
　ボビンの取り出し方 10
　下糸の巻き方 10
　ボビンの入れ方 11
上糸の準備 12
　上糸のかけ方 12
　糸通しの使い方 13
　下糸の引き上げ方 13

ぬい模様の選び方（基本ぬい・実用ぬい）

ぬい模様の選び方
　（基本ぬい・実用ぬい） 14
　基本ぬいの選び方 14
　実用ぬいの選び方 14
　ぬい目の幅（ふり幅）と長さの調節 15

ぬってみましょう自動糸調子

ぬってみましょう 16
　ぬい始め～ぬい終わり 16
　返しぬい 17
　ぬい方向のかえ方 17
　厚地のぬい始め 17
　段ぬい 17
自動糸調子 18
糸と針の選び方 19

いろいろなぬい方

地ぬい（直線ぬい） 20
　自動返しぬい付直線ぬい 20
伸縮ぬい 20
ジグザグぬい 21
伸縮強化ぬい 21
つくろいぬい
　（点線ジグザグぬい） 21
ふちかがりぬい（たち目かがり） . 22
まつりぬい
　（ブラインドステッチ） 23
ファスナー付け
　（つき合わせ・脇あき） 24
　つき合わせ 24
　脇あき 25
アイレット（はと目穴） 26
パッチワーク 26
クロスステッチ 27
スカラップ 27
ボタンホールぬい 28
かん止め 30
フリーアームぬい 31

模様・文字ぬい

模様・文字ぬい 32
　模様・文字の選び方 32
　模様・文字の取り消し 33
　模様・文字の確認 34
　模様・文字の呼び出し 34
模様・文字のぬい方 35
　例 36

ぬい目の形の調整 コントローラーのご案内 ミシンのお手入れ

ぬい目の形の調整 38
仕様 38
コントローラーのご案内（別売り） 39
ミシンのお手入れ 40
　ランプの交換 40
　かまと送り歯の掃除 41
お知らせメッセージ 42
不調の原因と処置 43

ぬい模様一覧 修理・サービス

ぬい模様一覧 44
修理サービス要領 ..... 裏表紙

各部の名称

トップカバー
（5ページ）

ハンドル

天びん（12ページ）

面板・ランプ
（40ページ）

糸切りボタン
（7ページ）

針上下・クイック
スローボタン
（7ページ）

返しぬいボタン
（7ページ）

スタート・ストップ
ボタン（7ページ）

補助テーブル
（8ページ）

はずみ車

電源スイッチ
（6ページ）

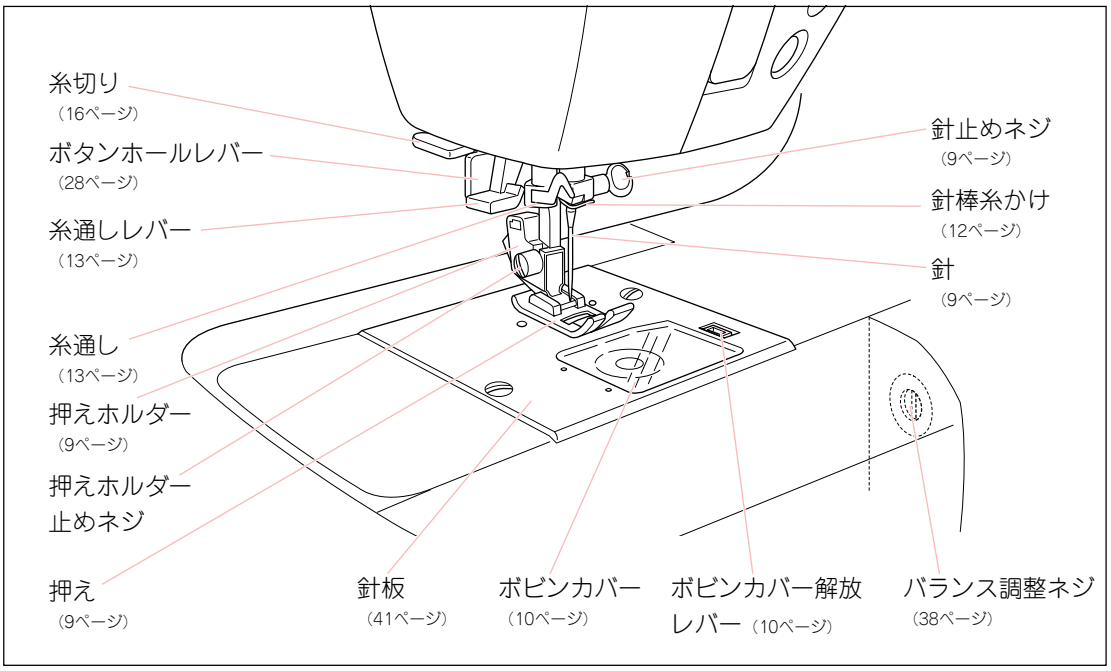
コントローラー
ジャック（39ページ）

押え上げレバー
（7ページ）

スピード調節つまみ
（7ページ）

電源コード
（6ページ）

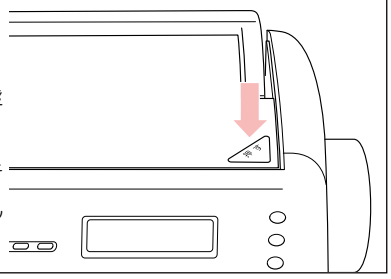
電源プラグ
（6ページ）



実用ぬいボタン（14ページ）
案内窓（14ページ）
模様ぬいボタン（32ページ）
文字ぬいボタン（32ページ）
実用
模様
文字
クリア
読み出し
よわい
自動
つよい
上糸の調節
前
次
「クリア」ボタン（33ページ）
「読み出し」ボタン（34ページ）
糸調子ライト（18ページ）
「次」ボタン（14、32、34ページ）
糸調子マニュアルボタン（18ページ）
機能ボタン（14、32、34ページ）
基本ぬいボタン（14ページ）
「前」ボタン（14、32、34ページ）

●トップカバーの開け方

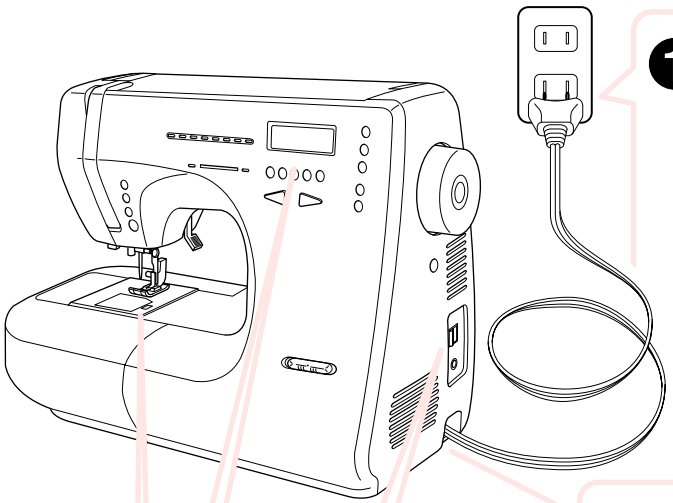
トップカバーの右下をかるく押すと、カバーが少し浮き上がります。
閉めるときも、カチッと音がするまでかるく押し込んでください。



●トップカバー内部

ぬい模様一覧表
糸かけ（10、12ページ）
下糸巻き案内（10ページ）
糸調子装置（12ページ）
糸立て棒（10、12ページ）
輝度調節ダイヤル（6ページ）
フェルト（10、12ページ）
下糸巻き軸（10ページ）
ボビン押え（10ページ）

電源の入れ方



❶ 電源プラグを引き出し、室内の電源コンセントに差し込みます。

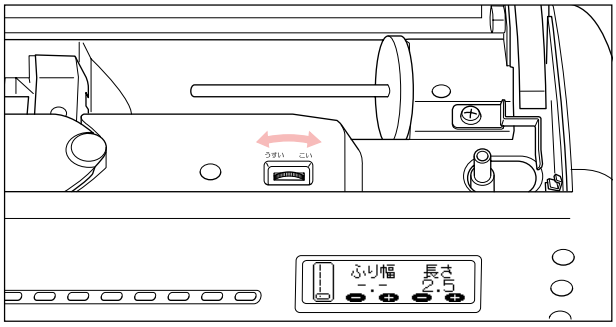
警告：感電、火災を防ぐために；
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

コードをしまうときは、コードを少し引っ張ってはなせば自動的に巻き込まれます。

❷ 電源スイッチの手前側（●マークのある方）を押すと電源が入ります。

❸ 電源を入れるとランプが点灯し、ぬいの手元を明るく照らします。
ミシンは、自動的に直線ぬいを選択します。

●案内窓が見にくいときは
トップカバー内部の輝度調節ダイヤルを回して、濃さを調節してください。



警告：事故防止のために；
ミシンを使わないときやお手入れの際は、必ず電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。

各部のはたらき

●スタート・ストップボタン

このボタンを一度押すとスタートし、もう一度押すとストップします。
ぬい始めは、ゆっくり回ります。
（上糸がかけられていないと、センサーが働き、数回転して停止します。）

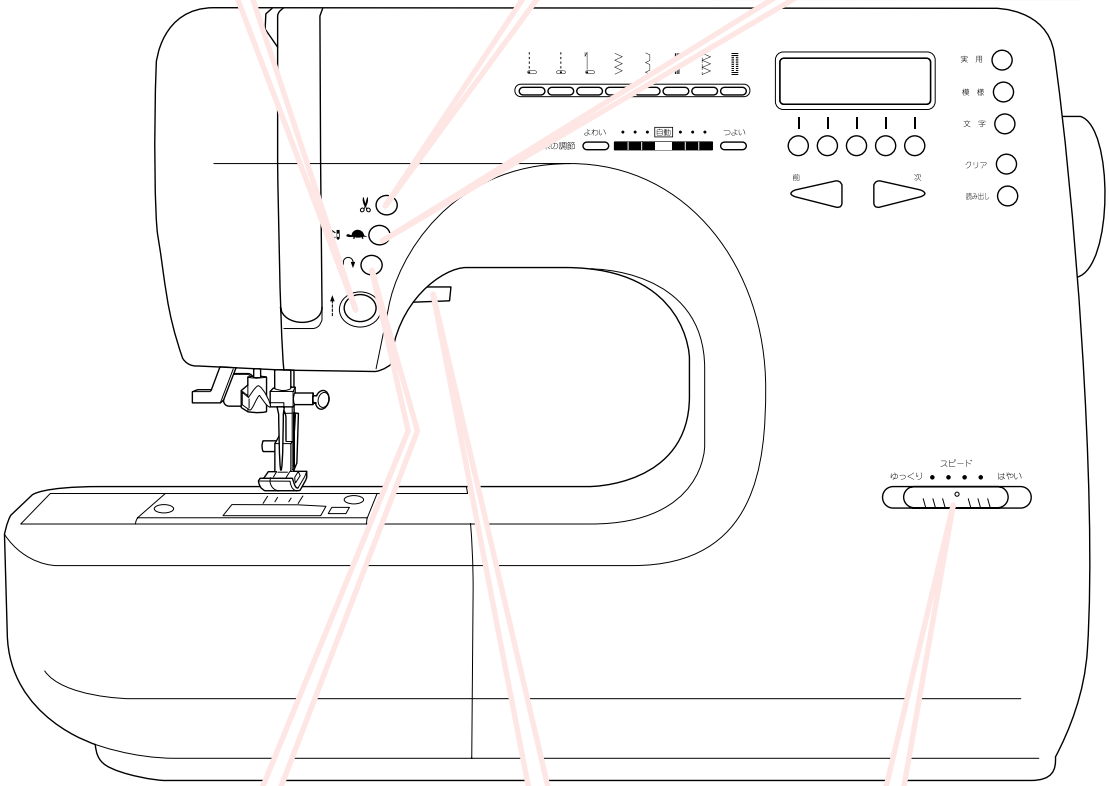
●糸切りボタン

ぬいの終わりにこのボタン押すと、上糸と下糸を同時に切ります。

- 番手が30番以下の太い糸やナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。
  これらの糸を切る場合には、ミシン左側の糸切りをお使いください。（16ページ参照）
- 布のないときや、糸を切る必要がないときに、むやみに糸切りボタンを押さないでください。故障の原因となります。

●針上下・クイックスローボタン

止まっているとき：針上下ボタン
ミシンが止まっているときにこのボタンを押すと、針の位置が上下に切りかわります。
上位置から続けて2回押すと1針ぬいになります。
ぬっているとき：クイックスローボタン
ぬいの途中で１度押すと、ゆっくりぬいになります。もう１度押すと、もとのぬいスピードに戻ります。



●返しぬいボタン

このボタンを押している間、返しぬいを低速でぬいます。
ボタンをはなすと止まります。

●押え上げレバー

このレバーで押えの上げ下げをします。
押えが上がっているときは、ミシンはスタートしません。（下糸巻きを除く）

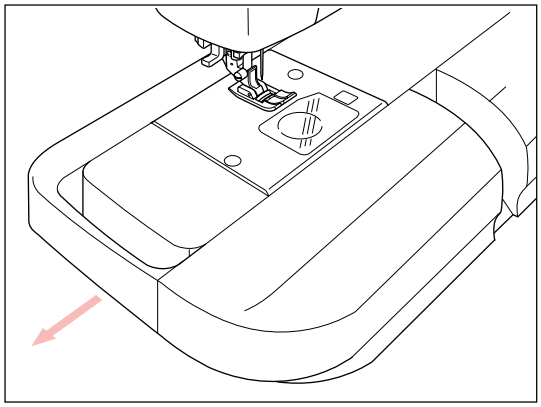
●スピード調節つまみ

このつまみを右に動かせば、だんだん速く、左に動かすとゆっくりになります。

> ⚠ **注意：ケガ防止のために；**
> 針先には十分注意してください。

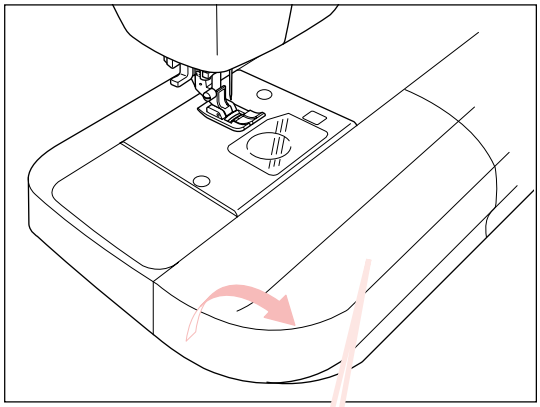
補助テーブルのはずし方

補助テーブル左下のみぞに指をかけ、
左に引きます。



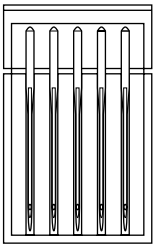
補助テーブルのあけ方

補助テーブルの左側に指をかけ、
上に引き上げます。

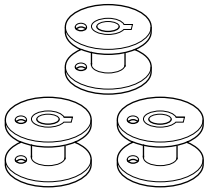


付属品

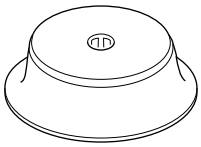
付属品は、補助テーブルの中に入っています。



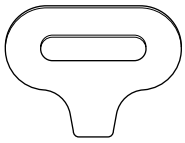
針ケース（5本入）
11番、14番、16番と
ニット針（黄色）11番、14番各1本



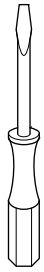
ボビン



糸巻き押え



針板用ドライバー

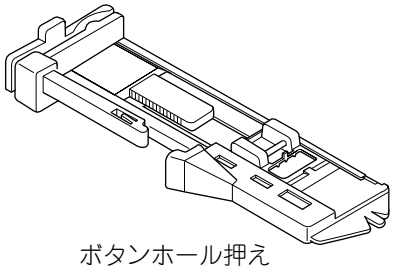


ドライバー

シームリッパー

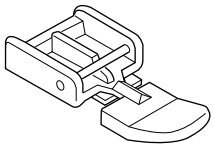
油差し

ブラシ

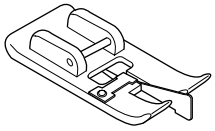


ボタンホール押え

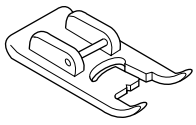
押え



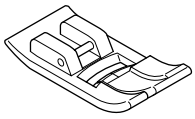
ファスナー押え



ふちかがり押え



サテン押え



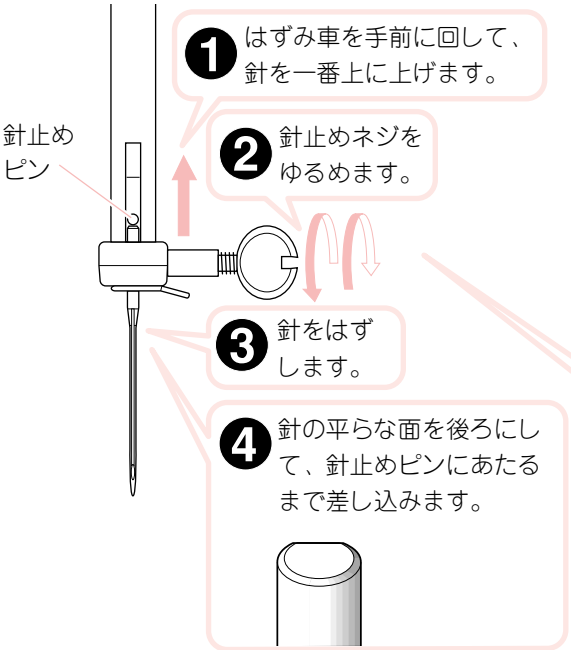
ジグザグ押え
この押えは、ミシンについています。

針の取りかえ方

針は、布地や糸に合わせて選びます。「糸と針の選び方」（19ページ）を参照ください。

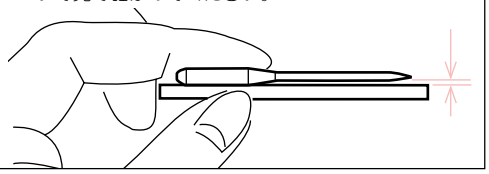
- 針板の上に紙や布をしいておくと、ミシンの中に針を落とす心配がありません。

注意：ケガ防止のために；
安全のため、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



1. はずみ車を手前に回して、針を一番上に上げます。
2. 針止めネジをゆるめます。
3. 針をはずします。
4. 針の平らな面を後ろにして、針止めピンにあたるまで差し込みます。
5. ドライバーでネジをしっかりしめます。

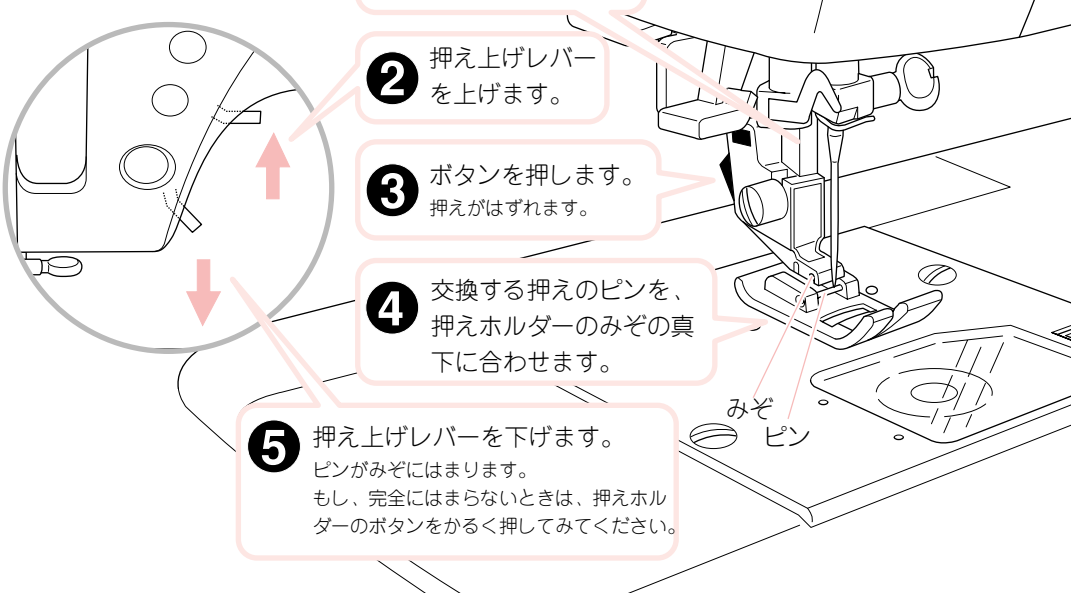
注意：ケガ防止のために；
曲がった針や、先がつぶれている針は、ご使用にならないでください。
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいて見て確かめてください。



押えの取りかえ方

押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬい方に適した押えが20ページ以降に示してあります。

注意：ケガ防止のために；
安全のため、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



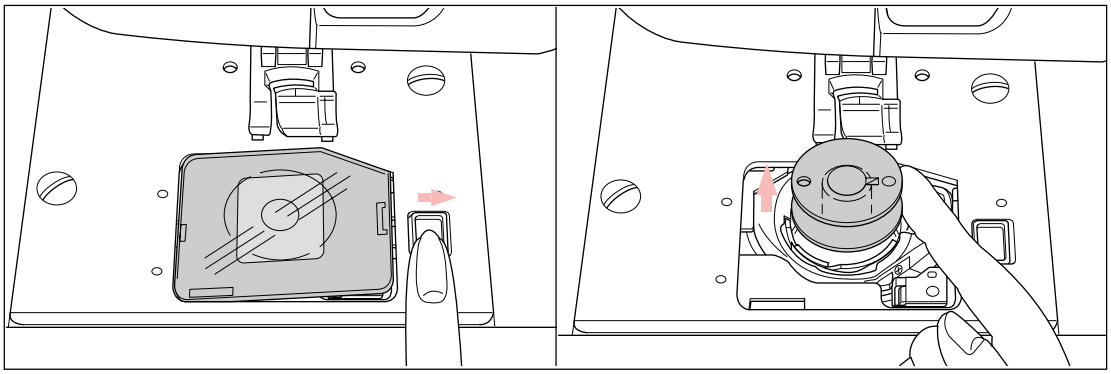
1. はずみ車を手前に回して、針を一番上に上げます。
2. 押え上げレバーを上げます。
3. ボタンを押します。
   押えがはずれます。
4. 交換する押えのピンを、押えホルダーのみぞの真下に合わせます。
5. 押え上げレバーを下げます。
   ピンがみぞにはまります。
   もし、完全にはまらないときは、押えホルダーのボタンをかるく押してみてください。

下糸の準備

●ボビンの取り出し方

1 ボビンカバー解放レバーを右に引いて、ボビンカバーを取りはずします。

2 ボビンを取り出します。

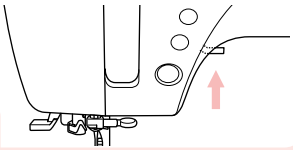


●下糸の巻き方

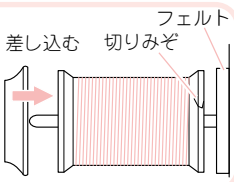
番号順に行います。

❶ 押え上げレバーを上げます。

❷ トップカバーを開けます。



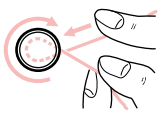
❸ 糸立て棒に糸巻きを入れ、糸巻き押えを差し込みます。
糸巻きに切りみぞがある場合は右にセットします。



❹ ミシン本体についている①～③の順番で糸をかけます。

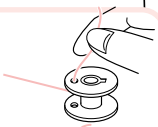
① 糸かけにかけます。
両手でしっかりかけます。

② 下糸巻き案内にかけます。
中までしっかり巻きつけてください。

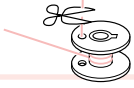


③ ボビンの穴に糸を通します。
ボビンを下糸巻き軸に差し込み、右へ押しつけます。

❺ 糸はしを持ちながら、ミシンをスタートさせます。
スピードをゆっくりに調節します。



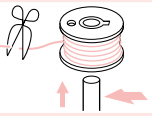
❻ 少し巻いたら、いったん止めて、余分な糸を切ります。



❼ もう一度スタートさせます。
スピードを調節します。

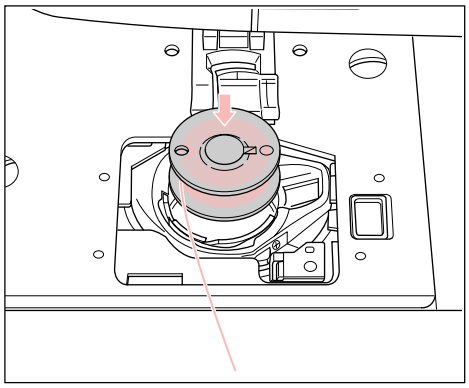
❽ 糸がボビン押えにあたるまで巻かれて、回らなくなったら、ミシンをストップさせます。

❾ 糸を切り、下糸巻き軸を左に戻して、ボビンをはずします。

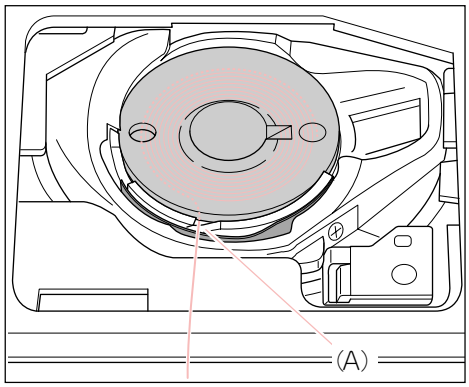


ボビンの入れ方

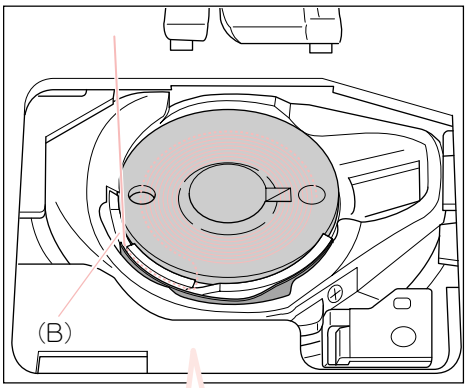
1 糸が図のような方向から出るようにして、ボビンを入れます。

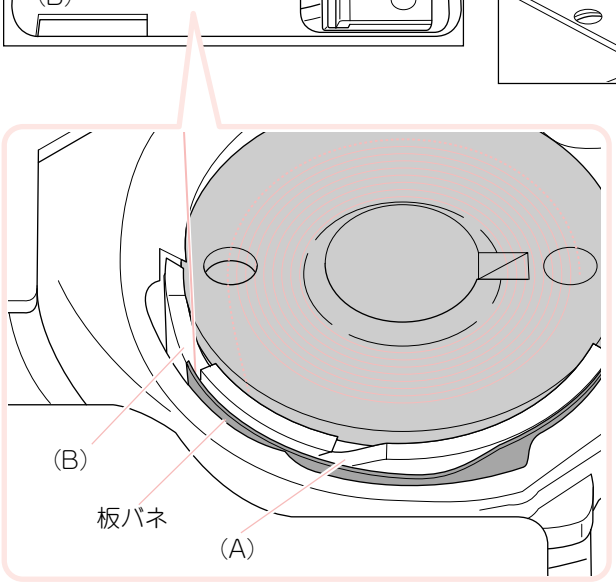


2 糸を手前のみぞ（A）にかけます。

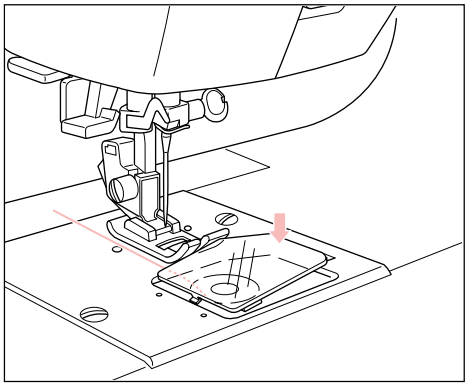


3 糸をみぞにかけたまま左に引き、板バネの内側を通るようにして、みぞ（B）にかけます。





4 糸を10cmくらい引き出します。ボビンカバーの左側のツメを針板のみぞに合わせ、右側をかるく押して、カバーを取り付けます。



お知らせ：
ボビンは、専用のものをお使いください。

上糸の準備

●上糸のかけ方

番号順に正しくかけてください。

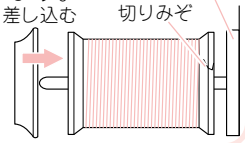
❶ 押え上げレバーを上げます。

❷ 針上下ボタンで針を上に上げます。

❸ トップカバーをあけます。

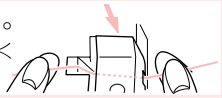
❹ 糸立て棒に糸巻きを入れ、糸巻き押えを奥まで差し込みます。

フェルトを必ずセットしてください。
糸巻きに切りみぞがある場合は右にセットします。



❺ ミシン本体についている 1 ～ 6 の順番で糸をかけます。

1 糸かけにかけます。
両手でしっかりかけてください。

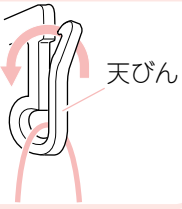


2 矢印にそって糸調子装置にかけ、左に引いてきます。

3,4 矢印にそって糸をかけます。

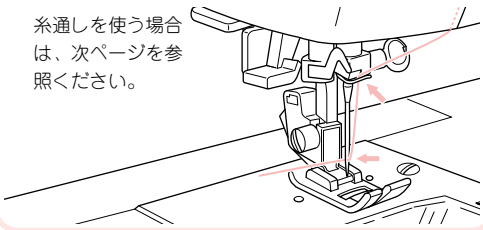
5,6 天びんに右から左へかけます。

糸を奥まで入れてもどします。



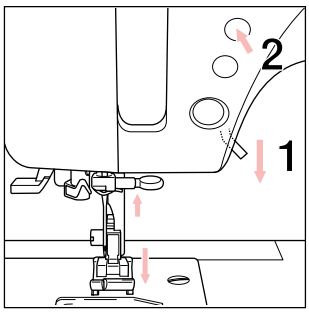
❻ 針棒糸かけにかけ、針穴に前から通します。

糸通しを使う場合は、次ページを参照ください。



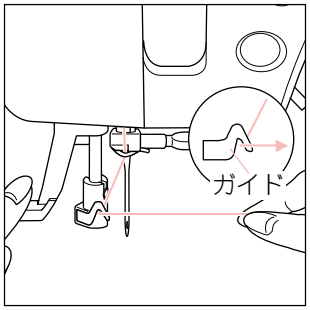
●糸通しの使い方

1 押えを下げます。
2 針上下ボタンで針を上げます。



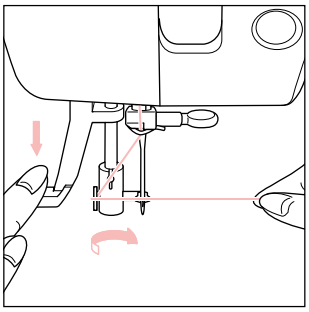
・針は11、14、16番が使えます。

3 糸通しレバーをかるく下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右に引いてきます。



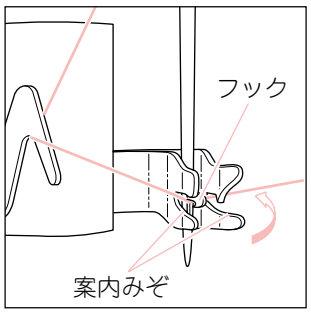
注意：ケガ防止のために；
ミシンが動いているときに糸通しレバーは下げないでください。

4 レバーをいっぱいに下げます。



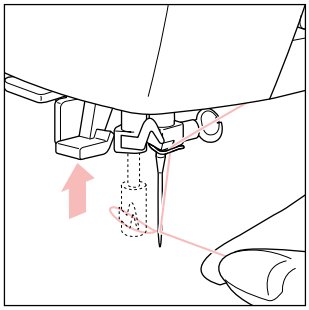
糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

5 糸を案内みぞの奥まで入れます。



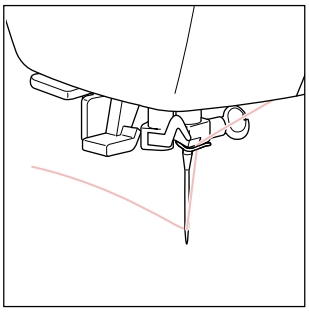
糸がフックに引っかかります。

6 糸をかるく持ってレバーをはなします。



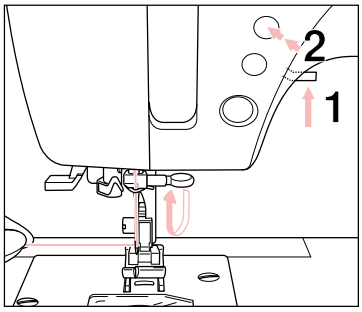
フックが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

7 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。



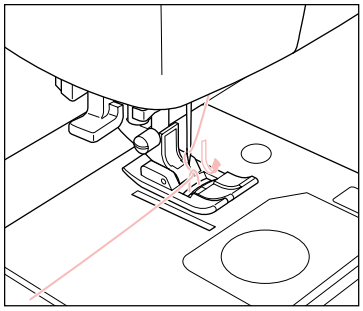
●下糸の引き上げ方

1 押えを上げます。
2 上糸をかるく持ちながら、針上下ボタンを2回続けて押します。

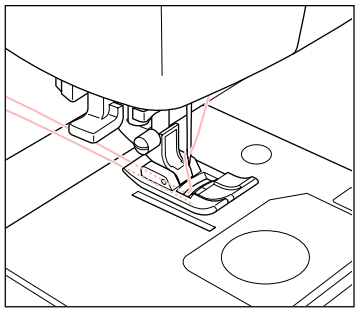


はずみ車が手前に1回転します。

3 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。



4 上糸と下糸をそろえて押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。

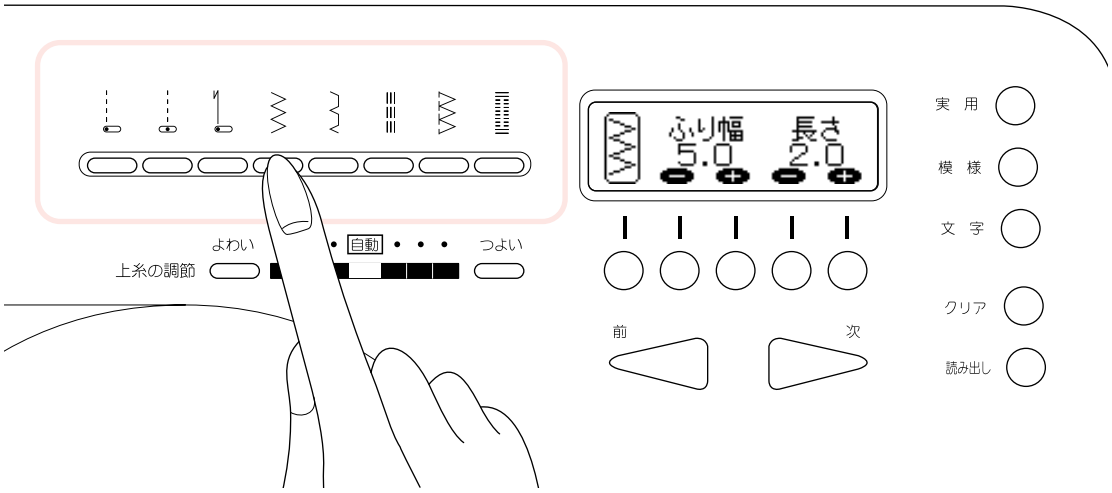


ぬい模様の選び方（基本ぬい・実用ぬい）

このミシンでぬえるぬい模様がトップカバーの内側に表示してあります。
ぬい模様はそれぞれ、基本ぬい、実用ぬい、模様ぬい、文字ぬいの 4 つに分けられます。
ここでは、基本ぬい、実用ぬいの選び方を説明します。
模様ぬい、文字ぬいの選び方は、32〜34ページを参照ください。

●基本ぬいの選び方

基本ぬいのぬい模様は、基本ぬいボタンで直接選びます。
選んだ基本ぬいが案内窓に表示されます。



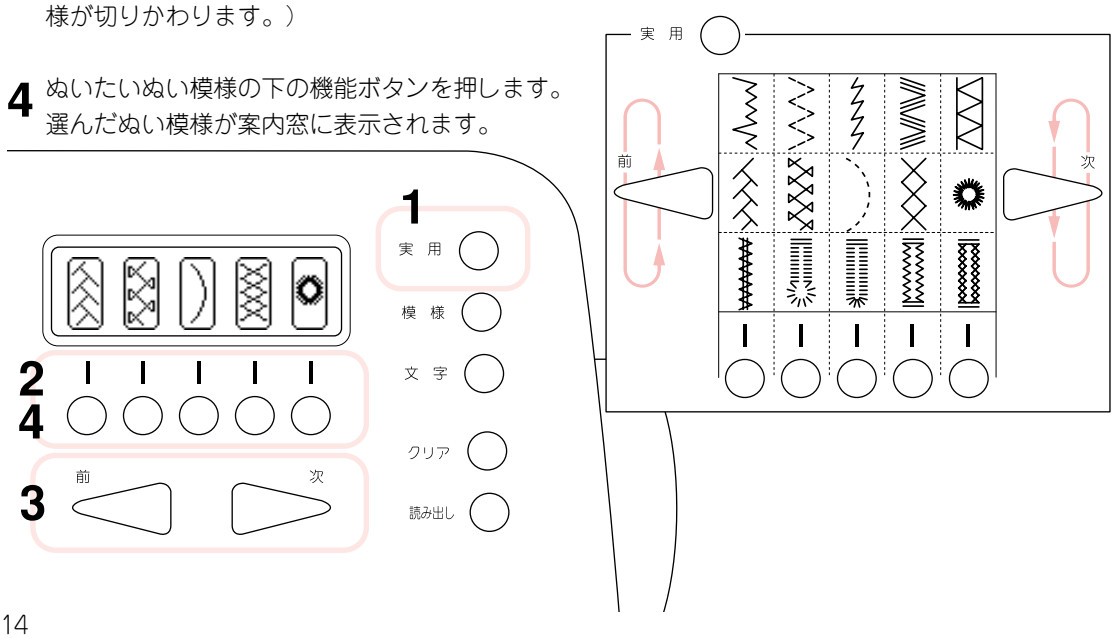
●実用ぬいの選び方

1 実用ぬいボタンを押します。
案内窓に実用ぬいの最初の 5 つのぬい模様が表示されます。

2 ぬいたいぬい模様がその中にあれば、その下の機能ボタンを押します。

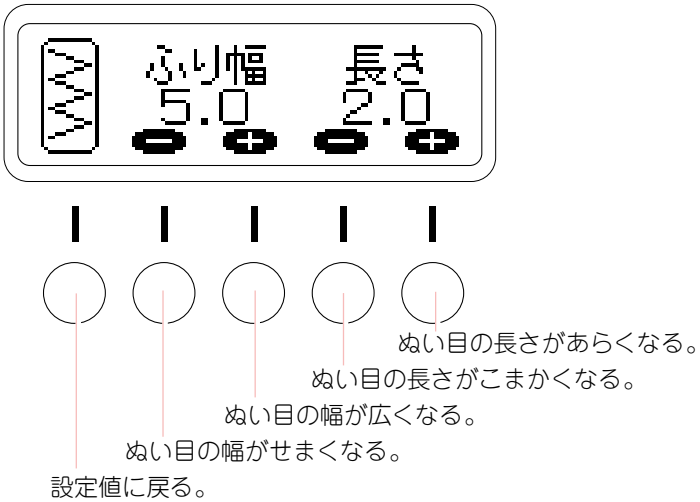
3 ぬいたいぬい模様がその中にないときは、次ボタンか、前ボタンを押します。
案内窓に実用ぬいの次の 5 つのぬい模様が表示されます。（ボタンを押すごとに表示されるぬい模様が切りかわります。）

4 ぬいたいぬい模様の下の機能ボタンを押します。
選んだぬい模様が案内窓に表示されます。



●ぬい目の幅（ふり幅）と長さの調節

基本ぬいと実用ぬいは、ぬい目の幅と長さを調節することができます。
ぬい模様を選ぶと、案内窓にあらかじめ設定されたぬい目の幅とぬい目の長さの数値が表示されます。
調節するには、それぞれの⊕、⊖表示の下の機能ボタンを押します。
ぬい模様の下の機能ボタンを押すと設定値に戻ります。



●ぬい目の幅、ぬい目の長さの目安

ぬい模様を選んだときに自動で選ばれる設定値と、手動で調節できる最大値と最小値の範囲です。
（　）で表示されたものや、数値表示のないものは手動で調節できません。

ぬい模様									
ぬい目の幅	設定値	-	-	-	5.0	3.0	-	(5.0)	5.0
	最小-最大	-	-	-	2.0-5.0	2.0-5.0	-	-	3.5/5.0
ぬい目の長さ	設定値	2.5	2.5	2.5	2.0	1.8	2.6	2.6	0.5
	最小-最大	0.8-4.0	0.8-4.0	0.8-4.0	0.0-2.5	0.8-2.5	1.4-2.6	1.4-2.6	0.3-1.0

ぬい模様											
ぬい目の幅	設定値	3.0	5.0	(1.5)	5.0	(5.0)	6.0	7.0	6.0	6.0	7.0
	最小-最大	2.0-5.0	2.5-6.0	-	2.0-5.0	-	4.0-7.0	4.0-7.0	4.0-7.0	4.0-7.0	5.0-7.0
ぬい目の長さ	設定値	1.8	1.0	2.5	2.6	2.6	2.6	2.6	1.8	2.6	-
	最小-最大	0.8-2.5	0.4-2.0	1.5-2.5	1.4-2.6	1.4-2.6	1.4-2.6	1.4-2.6	0.8-2.5	1.4-2.6	-

ぬい模様						
ぬい目の幅	設定値	(2.0)	5.0	5.0	5.0	5.0
	最小-最大	-	3.5/5.0	3.5/5.0	3.5/5.0	3.5/5.0
ぬい目の長さ	設定値	0.5	0.5	0.5	2.4	2.4
	最小-最大	0.3-1.0	0.3-1.0	0.3-1.0	2.0-2.6	2.0-2.6

ぬってみましょう

電源を入れると直線ぬい（　）が選ばれます。

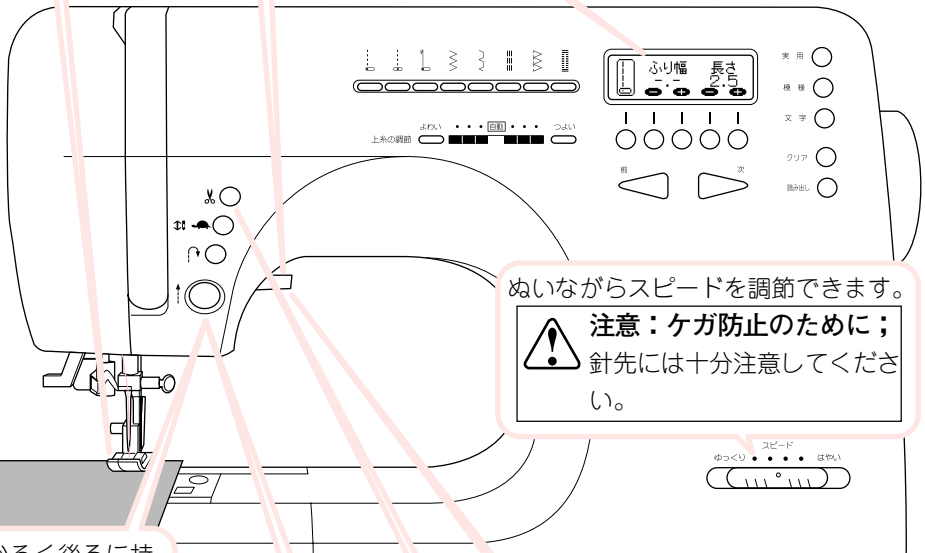
●ぬい始め〜ぬい終わり

安全装置：
このミシンは、押えを上げたままではスタートしないようになっています。
また、ぬいの途中で上糸が切れたり、無くなった場合には、自動的に停止します。

❶ ぬい模様と押えを確かめます。（ジグザグ押え）
押えの取りかえ方は 9 ページを参照ください。

❷ 布地を入れます。

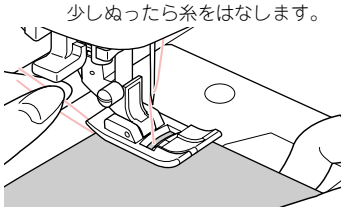
❸ 押えを下げます。



ぬいながらスピードを調節できます。

注意：ケガ防止のために；
針先には十分注意してください。

❹ 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。
少しぬったら糸をはなします。



● ぬいの途中で針上下・クイックスローボタンを押すとゆっくりぬいになります。

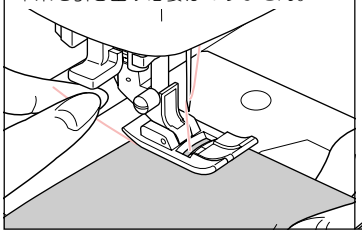
❺ 終わりまで来たら、ストップします。

❻ 糸切りボタンを押します。
- 番手が30番以下の太い糸やナイロン糸など特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。
- 布のないときや、糸を切る必要がないときに、むやみに糸切りボタンを押さないでください。故障の原因となります。

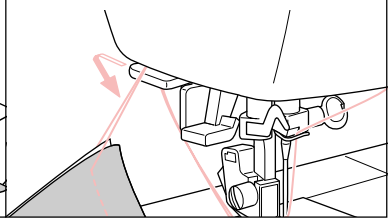
❼ 押えを上げ、布を引き出します。

注意：ケガ防止のために；
布地はミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

お知らせ：
糸切りボタンで糸を切った後、次のぬい始めからは、上糸だけをもってぬい始めます。
下糸を引き出す必要はありません。



糸切りボタンを使わないときは、押えを上げて布を引き出し、ミシン左側の糸切りに後ろから手前にかけて糸を切ります。

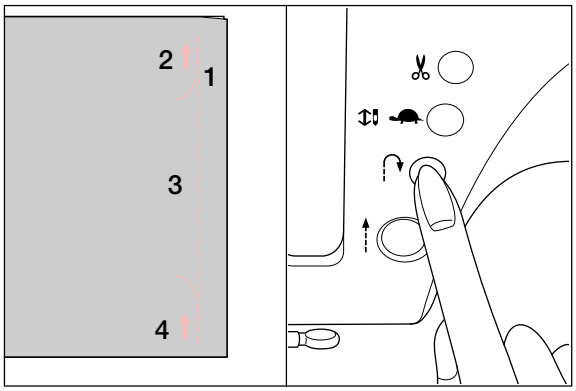


返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、ぬいの始めと終わりに返しぬいをします。

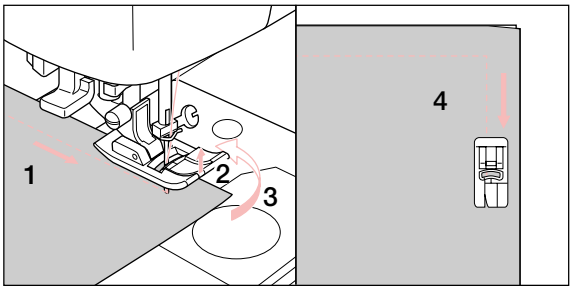
1. 返しぬいの分、布を奥に入れて押えを下げます。
2. 返しぬいボタンを押しながら、4〜5針返しぬいをします。
   ボタンをはなすと止まります。
3. スタートボタンを押して、ぬい進めます。
4. 終わりまで来たら、返しぬいボタンを押します。

● 自動返しぬい付直線ぬいは、始めの返しぬいを自動でぬいます。（20ページ参照）



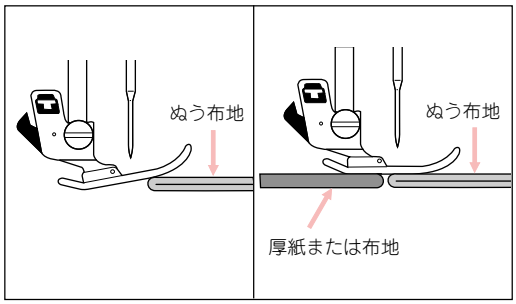
ぬい方向のかえ方

1. 布地の角まできたら、ストップします。
2. 押えを上げます。
3. 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
4. 押えを下げて、ぬい始めます。

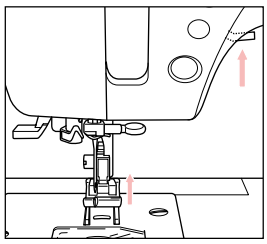


厚地のぬい始め

厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。
このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがってぬい始めます。

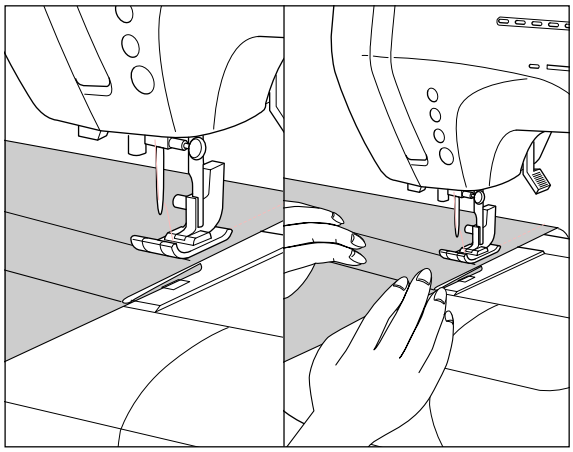


● 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。



段ぬい

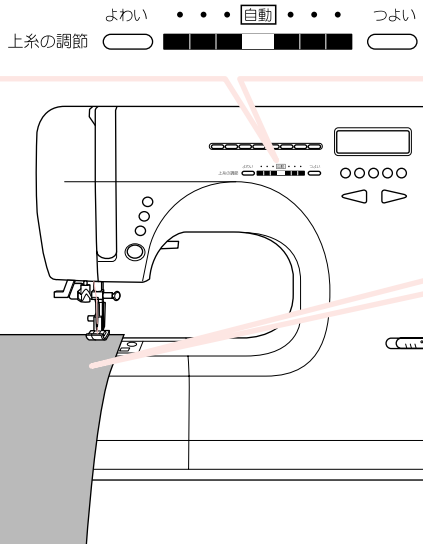
布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。



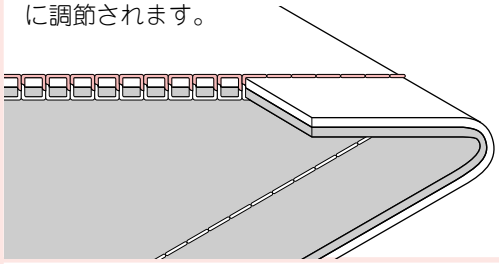
自動糸調子

このミシンは、上糸調子をぬい目に合わせてコンピュータで自動的に調節します。

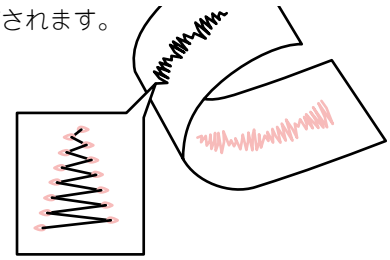
電源を入れると糸調子は、「自動」にセットされます。（緑の表示ライトが点灯します。）



上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわるように調節されます。

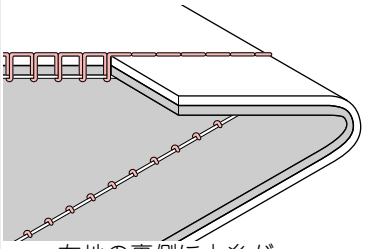


装飾模様や、文字ぬいでは、きれいにぬえるように上糸が少し布の裏側に出るように調節されます。



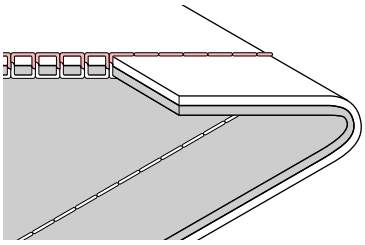
極厚地や特殊な素材をぬうときや、ギャザー寄せ、しつけぬいのように上糸調子をかえてぬいたい場合は、マニュアルボタンで調節することができます。

上糸が弱いぬい目

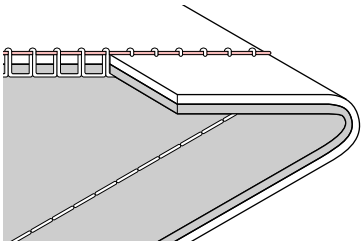


布地の裏側に上糸が出てきます。

正しいぬい目



上糸が強いぬい目



布地の表側に下糸が出てきます。

弱くなる

「よわい」ボタンを押すごとに上糸調子は弱く、「つよい」ボタンを押すごとに強くなります。

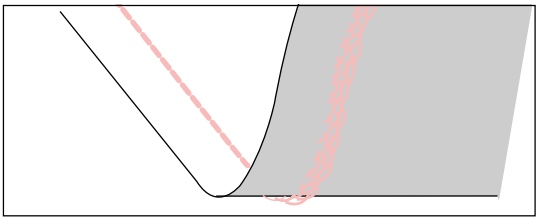
強くなる

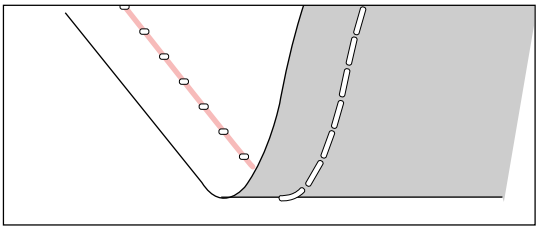
●基本ぬい、実用ぬいのぬい模様を選び直すと、糸調子は、「自動」に戻ります。

●こんな場合は…

図のように布地の上側は普通にぬえて、下側がタオル地のようになるときは、上糸のかけ方（とくに、上糸調節装置への）が違っています。12ページをご覧の上、正しくかけ直してください。

また、糸調子が「自動」になっているのに、下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンの入れ方が違っています。11ページをご覧の上、正しく入れ直してください。





糸と針の選び方

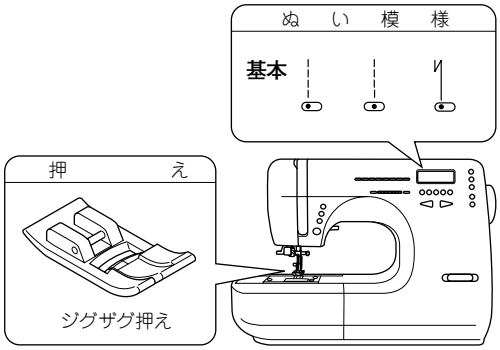
糸と針は、おぬいになる布地の種類や厚さに応じて選びます。

布地の種類	糸の番号	針の番号	ぬい目の長さ（直線ぬい）
薄地： 薄地ジョーゼット、オーガンディー、 ボイル、タフタ、絹布など	綿　80～100 絹　60～80 化繊糸 80～100	9～11番	1.4～2.5ミリ
普通地： ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、 サテン、薄手のコーデュロイ、別珍、 一般服地など	綿　50～80 絹　50 化繊糸 50～80	11～14番	2～3ミリ
厚地： ギャバジン、ツイード、デニム、 キルティング、コーデュロイなど	綿　30～50 絹　50 化繊糸 30～60	14～16番	2～4ミリ
伸縮性の布地： ダブルニット、トリコット、 スパンデックス、ジャージなど	化繊糸 50～80 絹　50 ニット用糸	11～14番 ニット用針	1.4～3ミリ

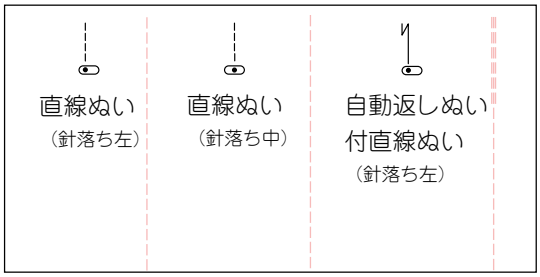
⚠ **注意：ケガ防止のために；**
針は、家庭用ミシン針（HA×1）とご指定の上、お買い求めください。

針の取りかえ方は、9ページを参照ください。

地ぬい（直線ぬい）



●布地に合わせて、ぬい目を選びます。
針落ち左は、薄地や端ぬいに適しています。

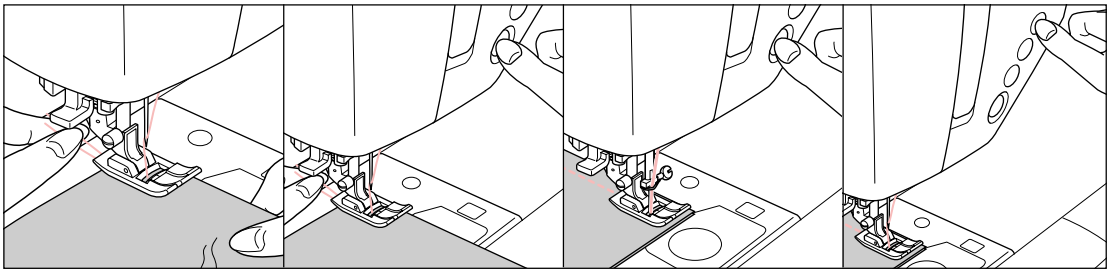


1 布を入れ、押えをおろします。

2 スタートボタンを押してスタートさせます。

3 ぬい終わりまできたらストップさせます。

4 糸切りボタンを押します。



上・下糸をかるく持ちます。
手は布にかるくそえるようにします。

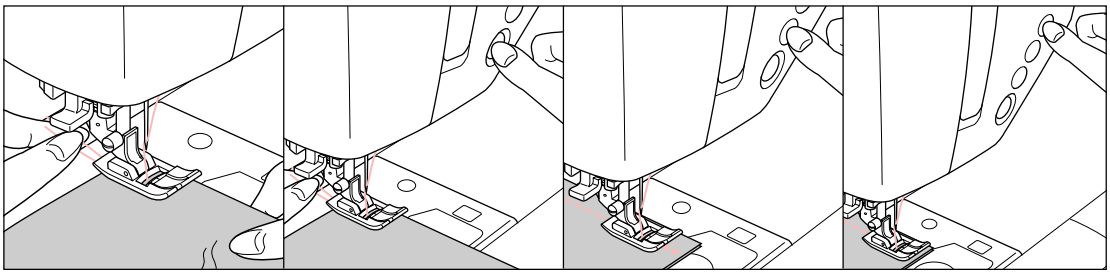
●自動返しぬい付直線ぬい

1 布を入れ、押えをおろします。

2 スタートボタンを押してスタートさせます。

3 ぬい終わりまできたら返しぬいボタンを押します。

4 糸切りボタンを押します。

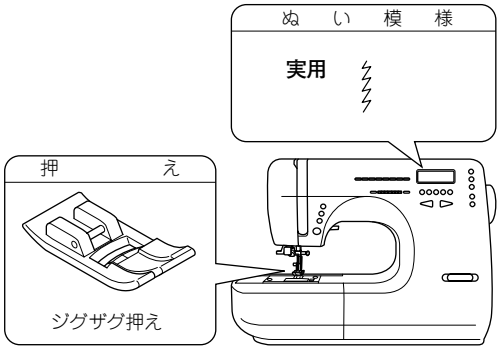


糸はしをかるく持ちます。
手は布にかるくそえるようにします。

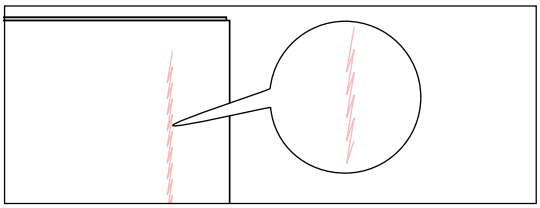
ミシンは数針進んだ後、返しぬいをして、再びぬい進みます。
ぬいを中断するには、スタート・ストップボタンを押します。

ミシンは数針返しぬいをした後、再びぬい進み、ぬい終わりの位置で自動的に止まります。

伸縮ぬい

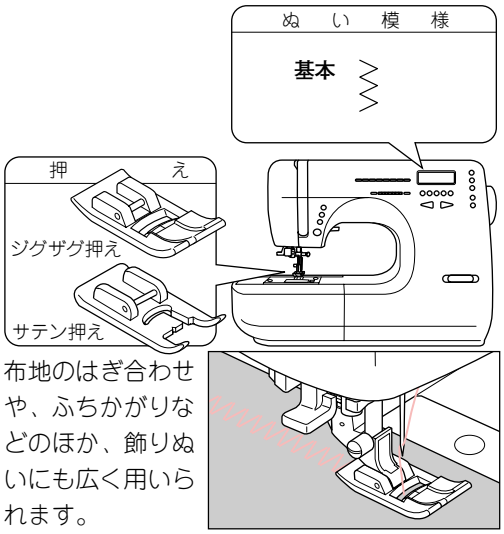


伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。



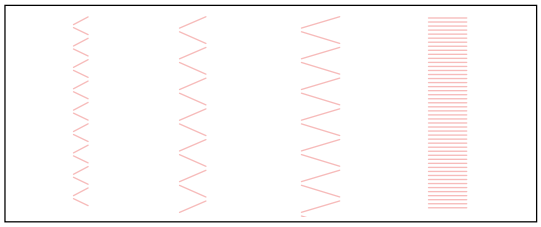
伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

ジグザグぬい

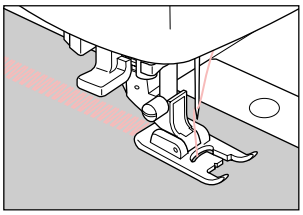


布地のはぎ合わせや、ふちかがりなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。

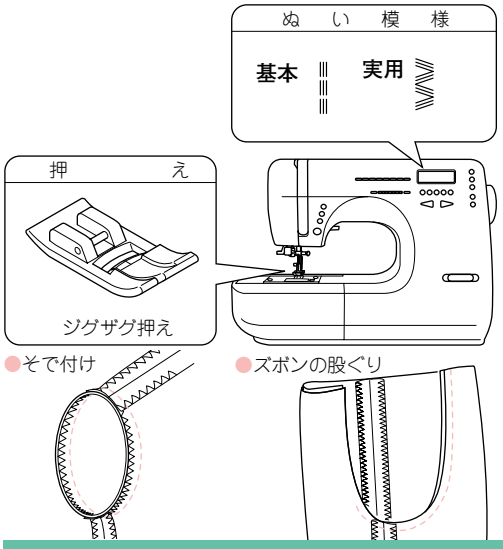
ぬい目の長さ、ぬい目の幅を調節して、いろいろな形のジグザグぬいができます。



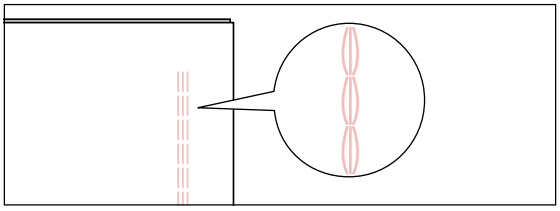
ぬい目の長さをこまかくして、密着ぬいをする場合は、サテン押えをお使いください。

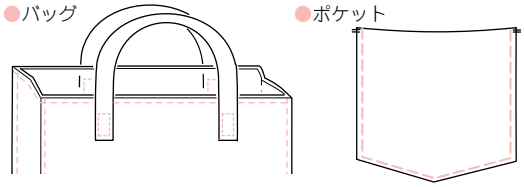


伸縮強化ぬい

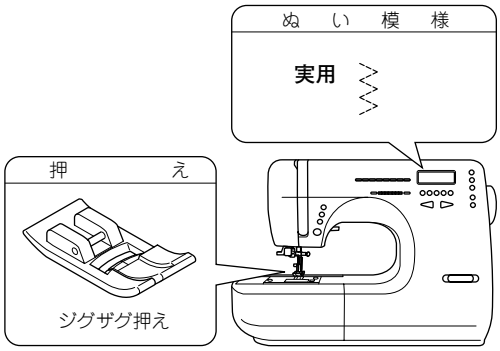


直線とジグザグの３重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



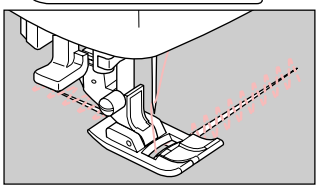


つくろいぬい（点線ジグザグぬい）

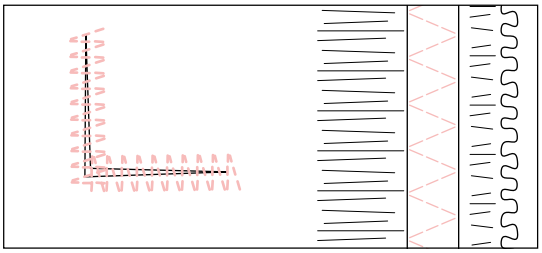


●**つくろいぬい**

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。

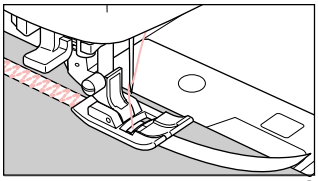


やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひものぬい付けなどに利用します。

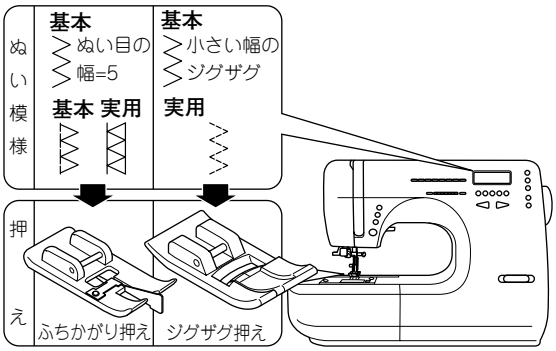


●**ゴムひも付け**

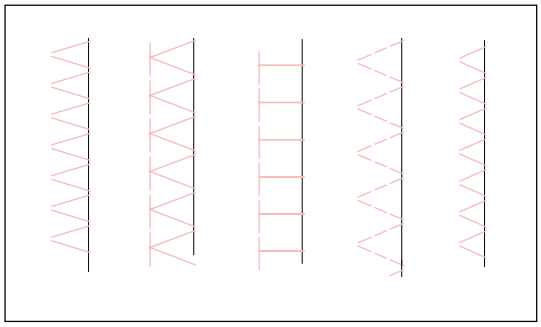
ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。



ふちかがりぬい（たち目かがり）

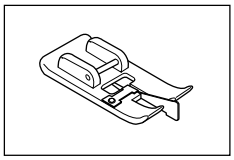


あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。

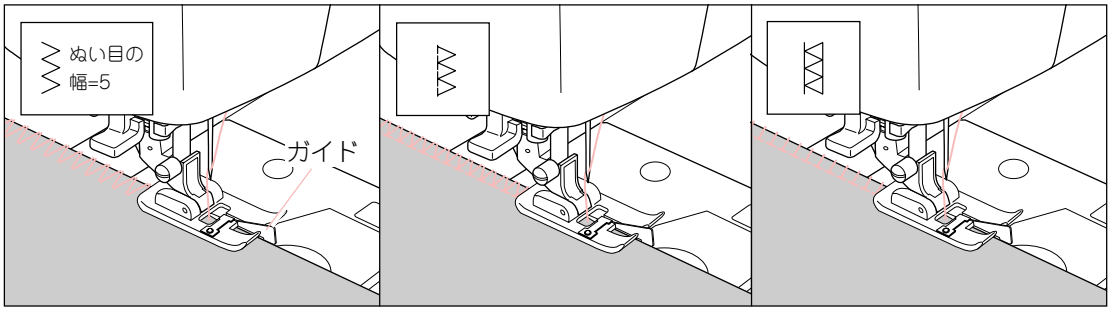


注意：ケガ防止のために；

ふちかがり押えは、必ず（ぬい目の幅=5）か、だけにお使いください。ほかのぬい模様では、針が押えにあたり、危険です。

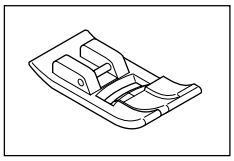


ふちかがり押えを使う場合：
布はしを押えのガイドにあて、針が布はしいっぱいに落ちるようにしてぬいます。

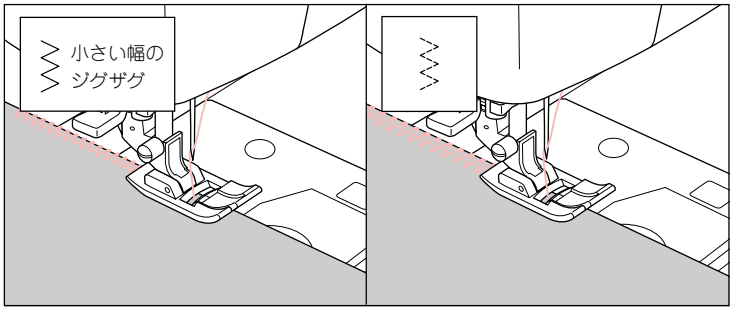


たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬいです。



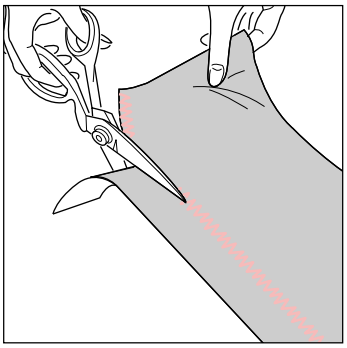
ジグザグ押えを使う場合：
針が布はしぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。



薄地の布をかがるときに使います。

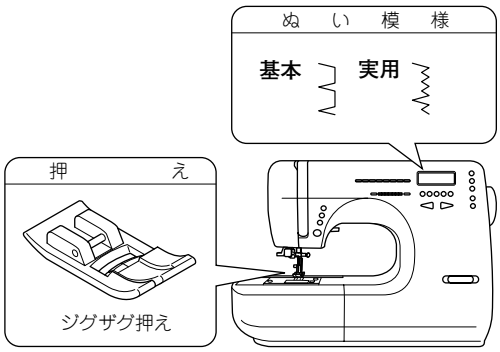
ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。

あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬいはしを切り落とす方法もあります。

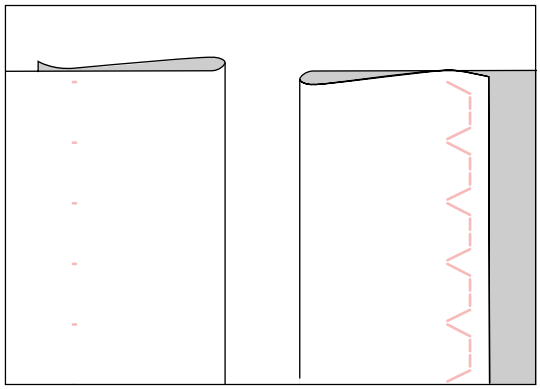


この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

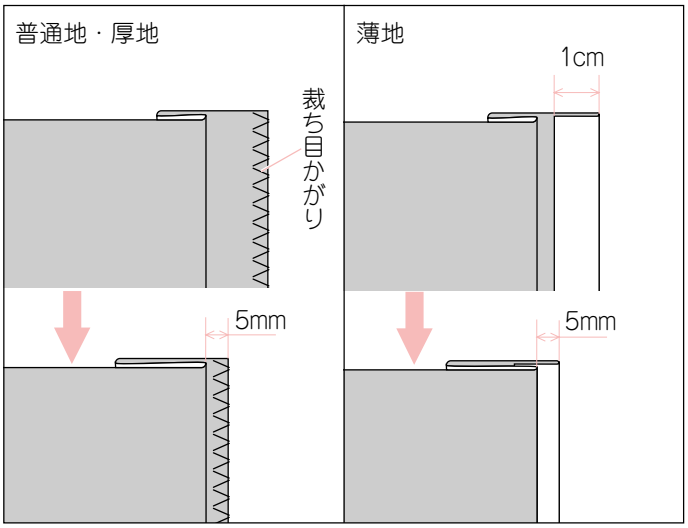
まつりぬい（ブラインドステッチ）



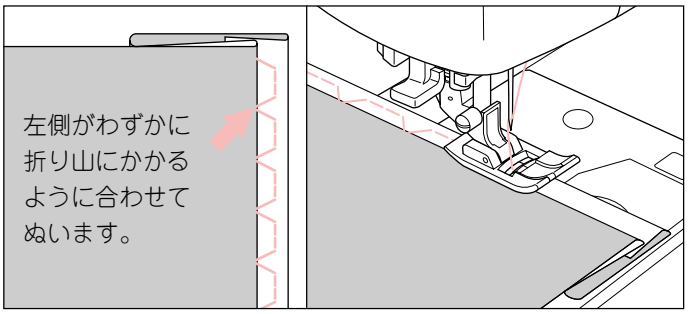
布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。
ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。



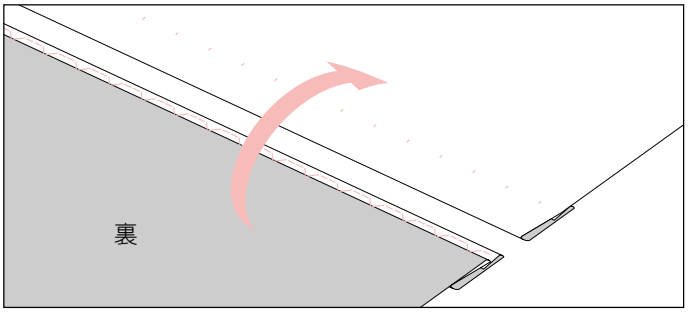
1 布を図のように折ります。
ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。



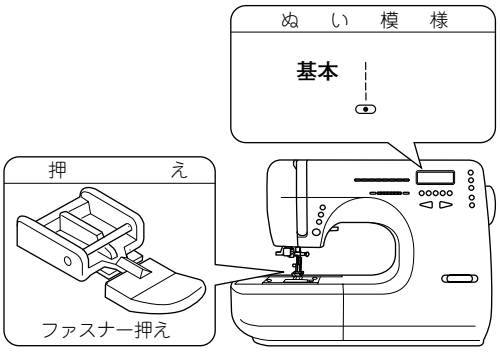
2 針が最も左側にきたとき、折り山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。
（ぬい目を選んだ時に針は、最も左にくるようになっています。）

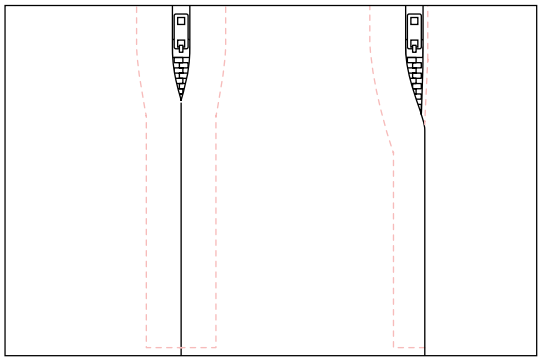


3 ぬい終わりましたら、布を返します。



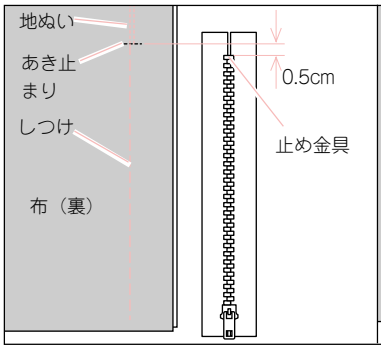
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）





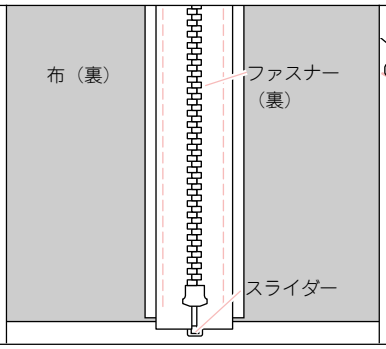
●つき合わせ

1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。



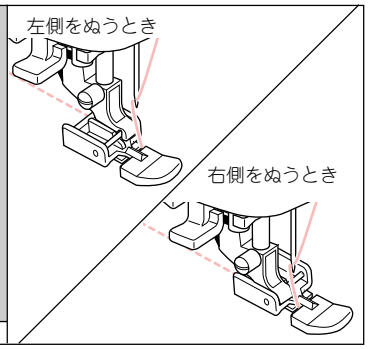
あき部分はしつけをします。

2 ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。



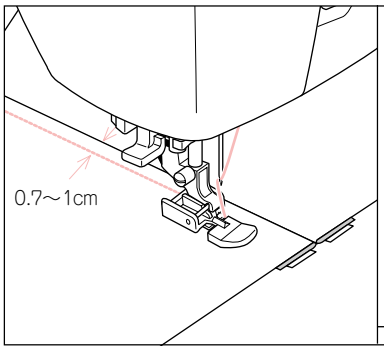
ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

3 ファスナー押えを取り付けます。



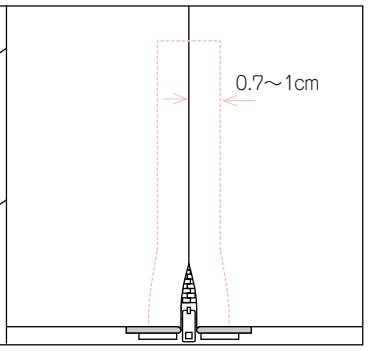
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。



布の合わせ目から0.7～1cm はなしてぬいます。

5 あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。



右側も同様に0.7～1cm はなしてぬいます。

注意：ケガ防止のために；

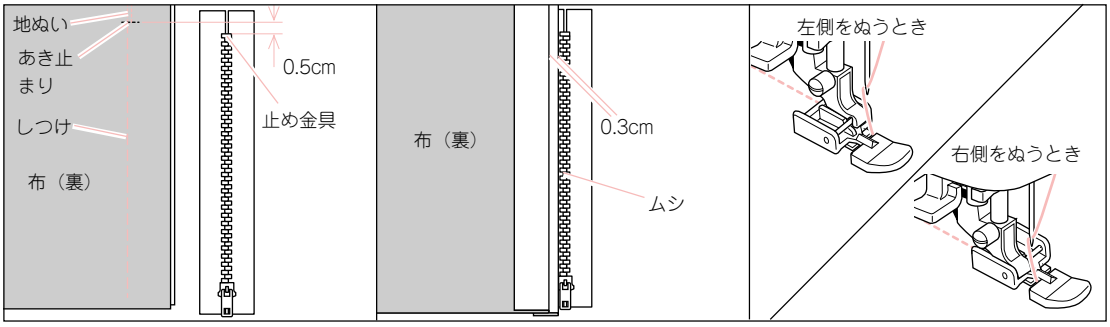
ファスナー押えは、必ずだけにお使いください。ほかのぬい模様では、針が押えにあたり、危険です。

脇あき

1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。

2 ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。

3 ファスナー押えを取り付けます。



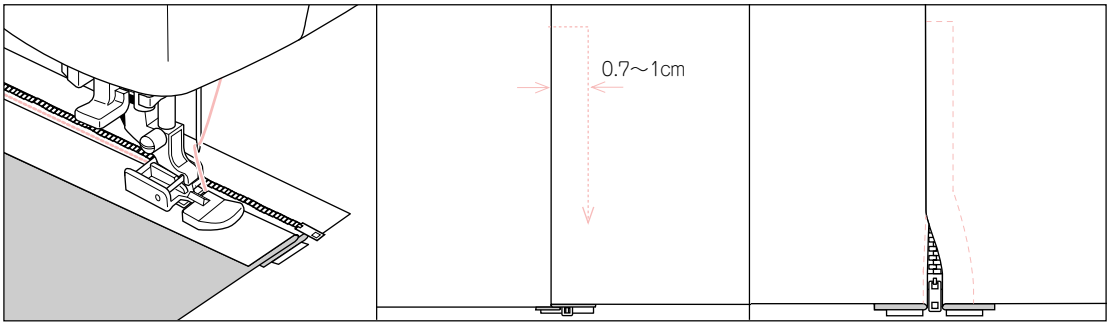
あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

5 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。

6 スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

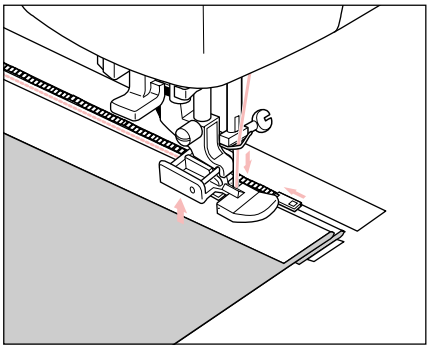


押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

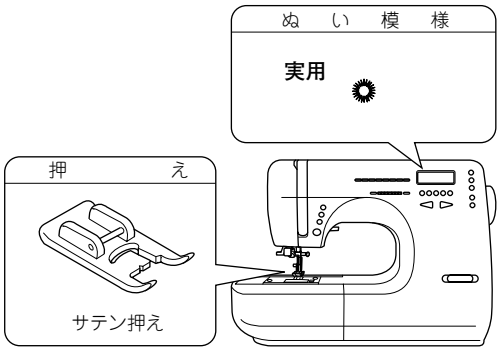
右側は、布の折り目から0.7～1cmはなしてぬいます。

● スライダーをよけてぬうには：

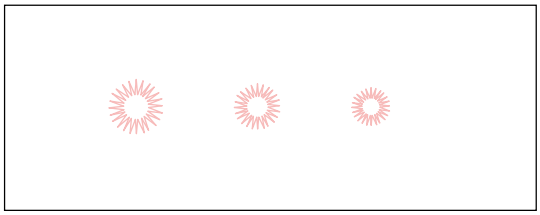
1. スライダーの手前でミシンを止めます。（針が下で止まります。）
2. 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
3. 押えを下げてぬい続けます。



アイレット（はと目穴）



ベルトの穴などに使用するアイレット（はと目穴）を作ります。

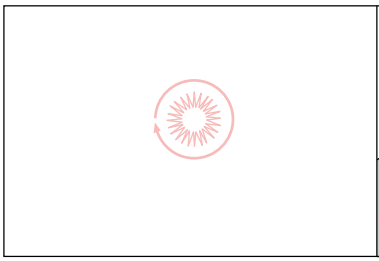


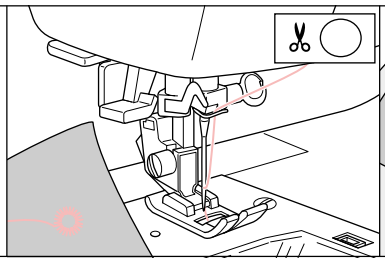
ぬい目の幅（ふり幅）を調節して、アイレットの大きさを3段階に変えることができます。

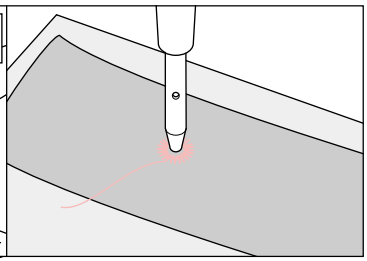
1 布を入れ、押えを下げてスタートします。

2 糸切りボタンを押し、押えを上げて布を取り出します。

3 はと目穴パンチ（市販品）で穴をあけます。



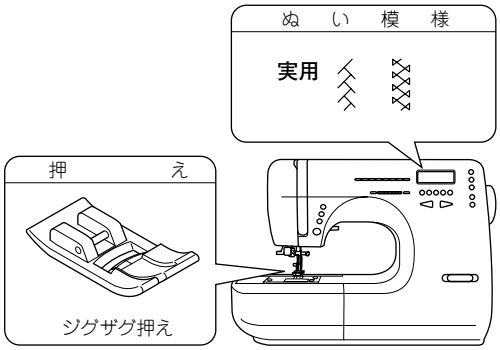




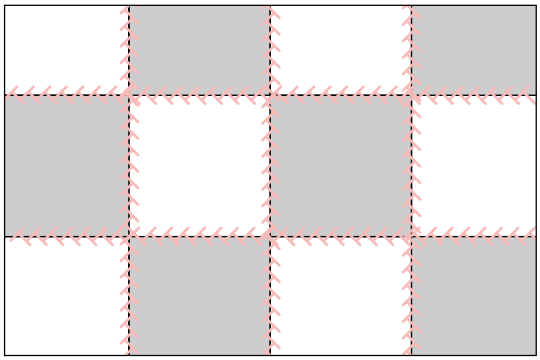
ぬい終わると止めぬいをして自動的に停止します。

穴をあけるときは、下に厚紙などをしいてください。

パッチワーク



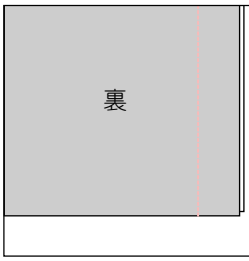
いろいろな布をはぎ合わせ、装飾に用います。

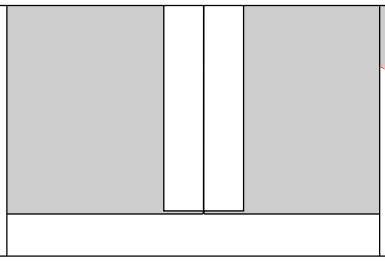


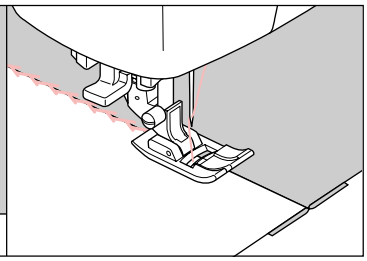
1 2枚の布地を中表に合わせ、地ぬいをします。

2 ぬい代をわります。

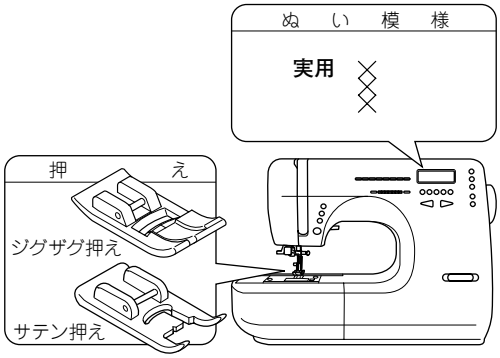
3 両方の布地にぬい目がまたがるようにしてぬいます。



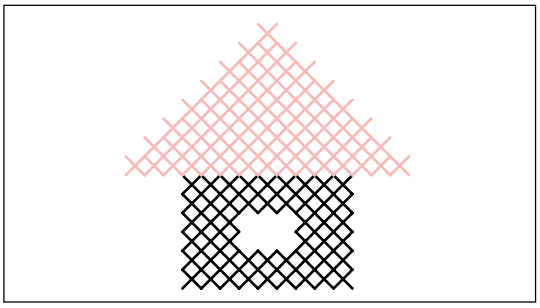




クロスステッチ



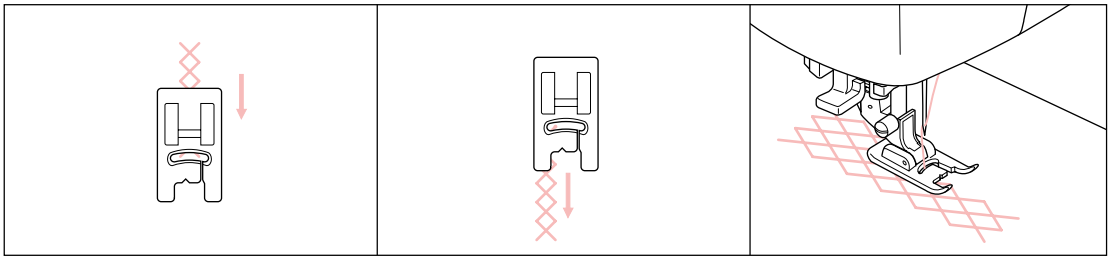
刺しゅうによく使われるクロスステッチができます。



1 最初の列をぬいます。

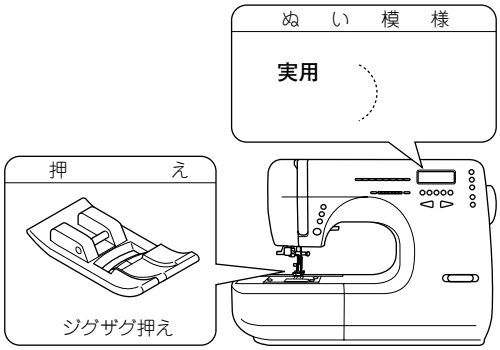
2 2列目の左側が、最初の列の右端に合うように布を合わせてぬいます。

3 3列目以降も同じようにしてぬいます。

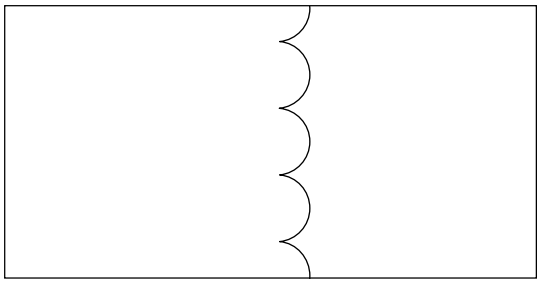


針を上位置にして、案内窓のぬい模様の下の機能ボタンを押すと、クロスステッチを最初からぬうことができます。（ぬい目の幅、長さも設定値に戻ります。）

スカラップ



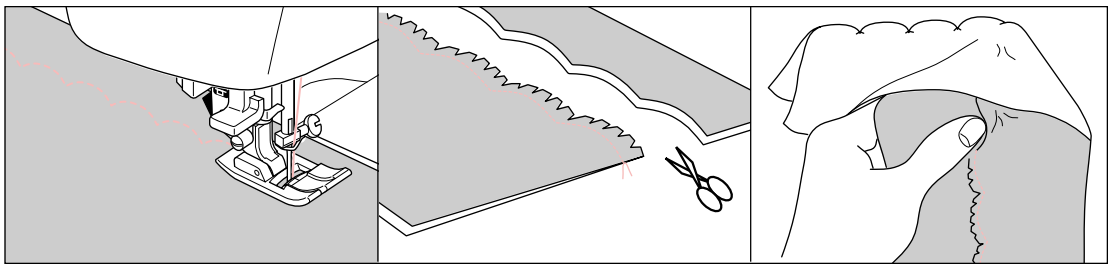
テーブルクロスやブラウスのえりのふち飾りに使います。



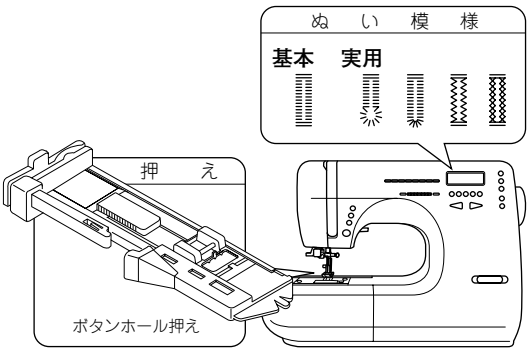
1 布を中表に折り、その端にそってぬいます。

2 ぬい目にそって0.3cm位のぬいしろをとって切り取り、ぬいしろに切り込みを入れます。

3 布を表に返して、ぬい目の山を表に押しだし、アイロンで仕上げます。

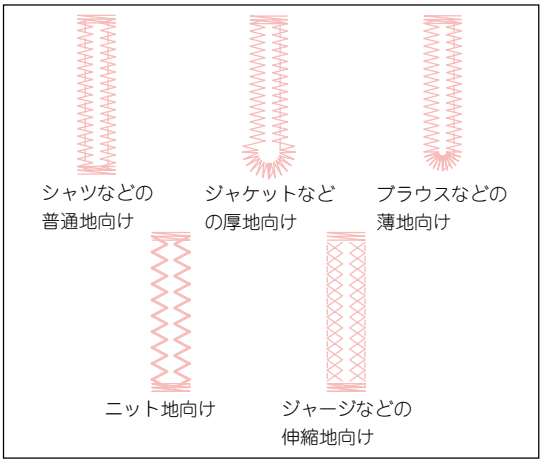


ボタンホールぬい



それぞれ大小のボタンホールをぬうことができます。大きいボタンホールをぬうときは、ぬい目の幅（ふり幅）を 5.0 に、小さいボタンホールをぬうときは、3.5 に合わせます。

5種類のボタンホールをワンタッチでぬうことができます。

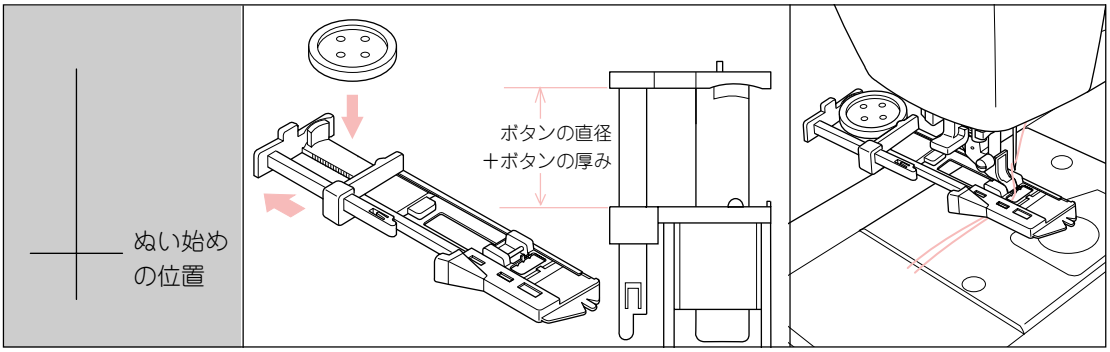


1 布地のボタンホールをぬう位置に印をつけます。

2 ボタンを押えの台にセットします。

●台にボタンがのらないとき
台の幅が「ボタンの直径＋ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

3 上糸を押えの穴に通し、上糸と下糸をそろえて左側に出しておきます。

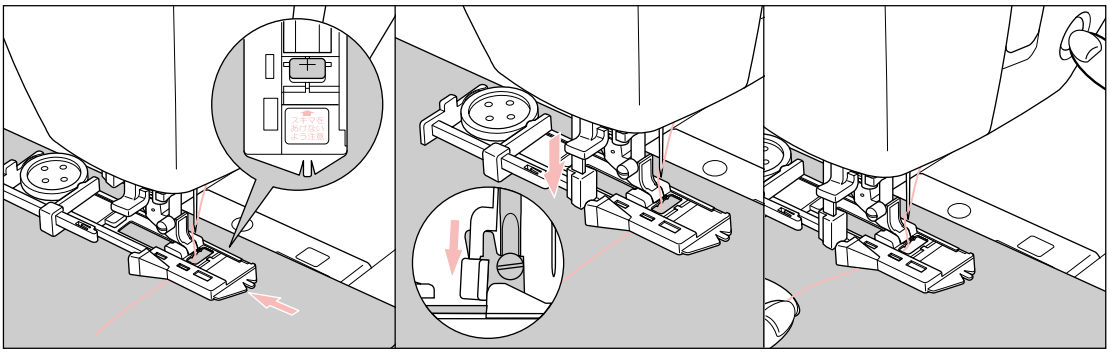


糸切りボタンで糸を切ったときは、下糸を出す必要はありません。

4 布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。

5 ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。

6 上糸をかるく持ちながら、スタートさせます。

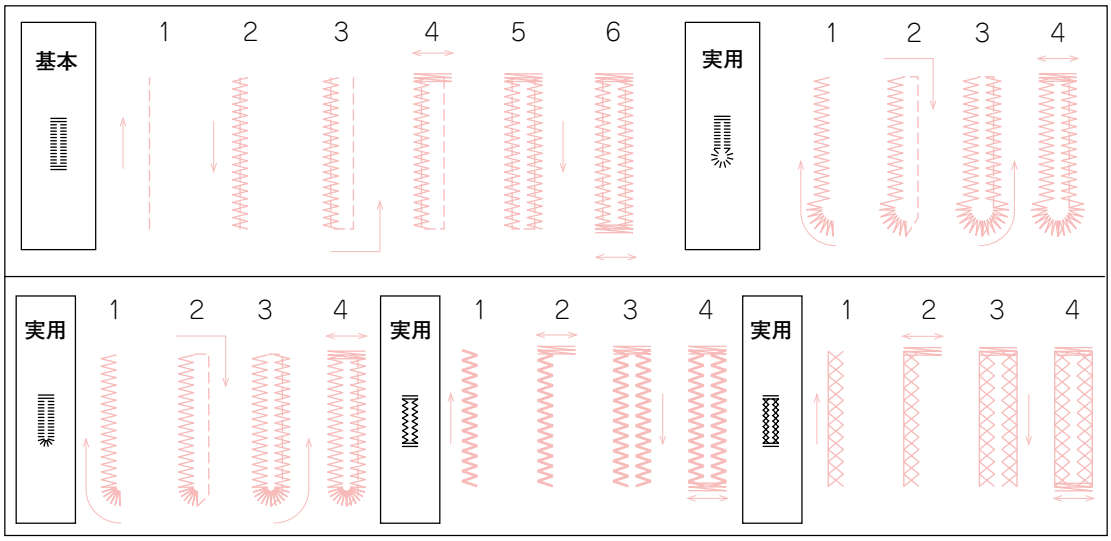


押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番向こう側に戻してください。

ボタンホールレバーは下まできちんと下げてください。

押えの枠と、ボタンホールレバーが正しい位置にないと、スタートボタンを押しても、スタートしません。

7 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。

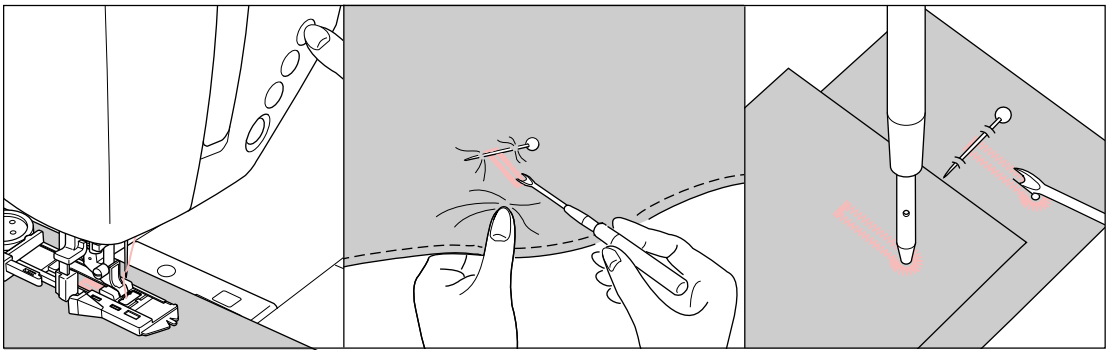


ぬい終わると自動的に止まります。

8 糸切りボタンを押します。押えを上げ、布をはずします。

9 シームリッパーで穴を開きます。

キーホール には、はと目穴パンチ（市販品）で穴をあけてからシームリッパーで切り開くときれいに仕上がります。



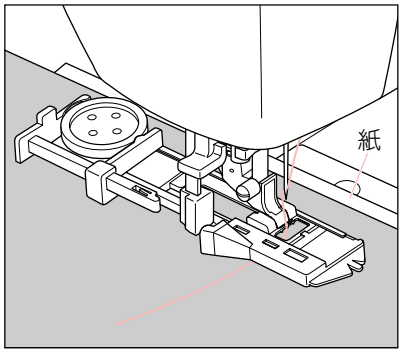
ボタンホールをもう一度ぬうには、押えを上げて押えの枠を一番向こう側に戻します。

ぬい糸を切らないように注意してください。かん止めのところにまち針を刺しておくと、切り過ぎがありません。

穴をあけるときは、下に厚紙などをしいてください。

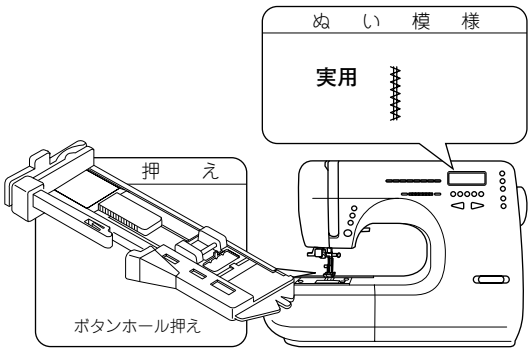
●伸縮性のある布地の場合

裏に紙などをしいてぬいます。ぬい終わったら、紙を取り除きます。

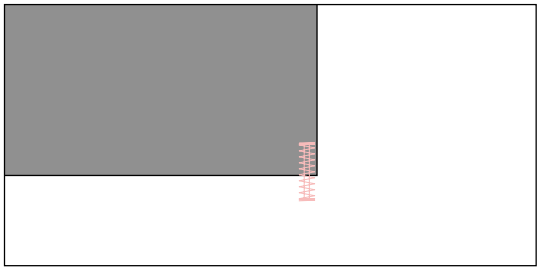


注意：ケガ防止のために；
シームリッパーで穴を開くとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったときケガをする恐れがあります。

かん止め

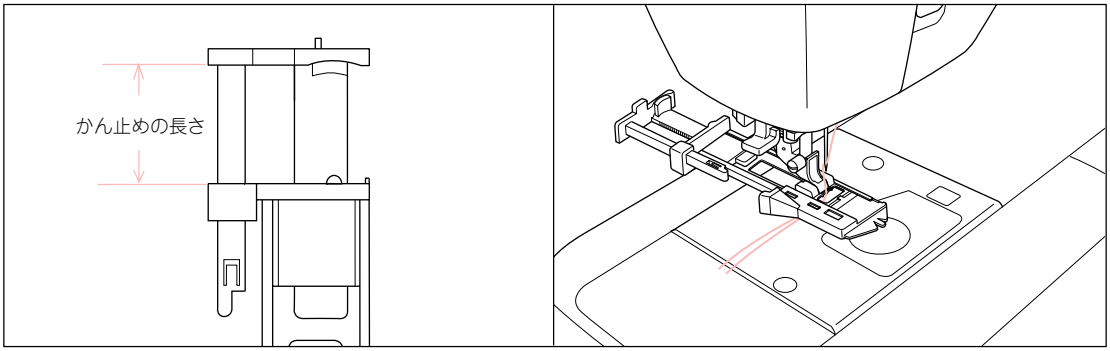


かん止め：ポケット口やあき止まりなどの力がかかってほつれやすいところに用います。



1 ぬいたいかん止めの長さの分だけ、押えの台をスライドさせます。

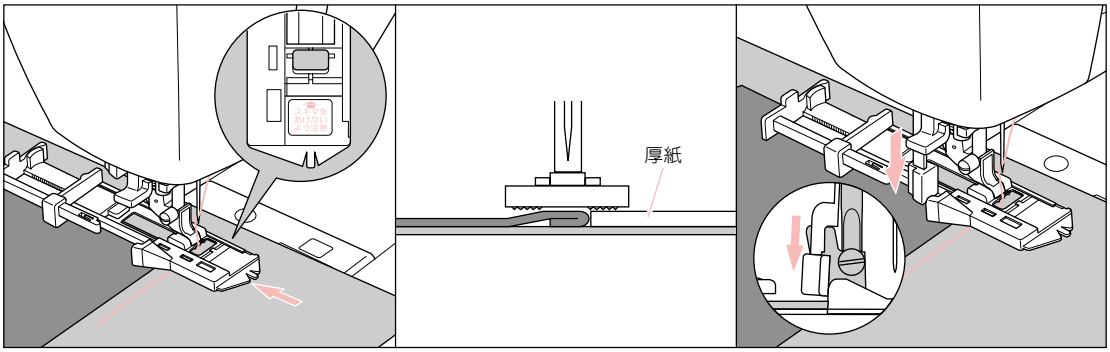
2 上糸を押えの穴に通し、上糸と下糸をそろえて左側に出しておきます。



3 ぬい始めの位置が手前側になるように、布を押えの下にセットして、押えを下げます。

● 厚い布のポケット口のかん止めをぬうには、厚紙をポケットの横にそえるとぬいやすくなります。

4 ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。



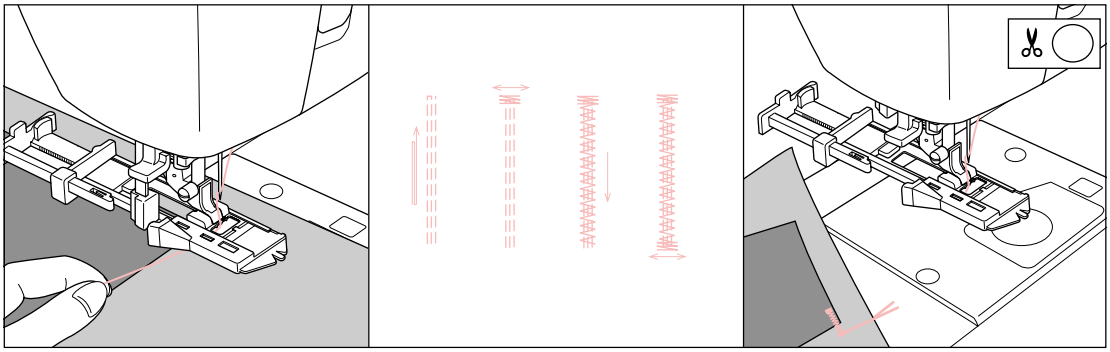
押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番向こう側に戻してください。

ご注意:ボタンホールレバーをきちんと下げないと、スタートボタンを押しても、スタートしません。

5 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。

6 図の順序でかん止めがぬわれていきます。

7 糸切りボタンを押します。押えを上げて布を出します。

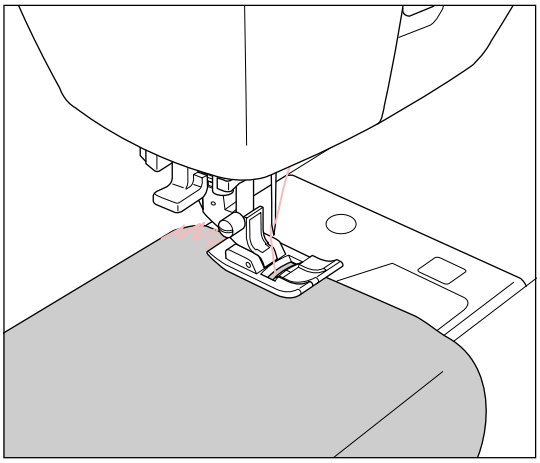


ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。

フリーアーム ぬい

補助テーブルを取りはずすだけで、フリーアームミシンになります。
袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単に出来ます。

● 補助テーブルのはずし方は、8ページを参照ください。



模様・文字ぬい

このミシンでは、模様と文字を組み合わせて、連続してぬうことができます。
文字は、ひらがな・漢字、カタカナ、アルファベットがあり、ひらがな・漢字、カタカナには、それぞれ横書きとたて書きの2通りがあります。（44ページ「ぬい模様一覧」参照）

●模様・文字の選び方

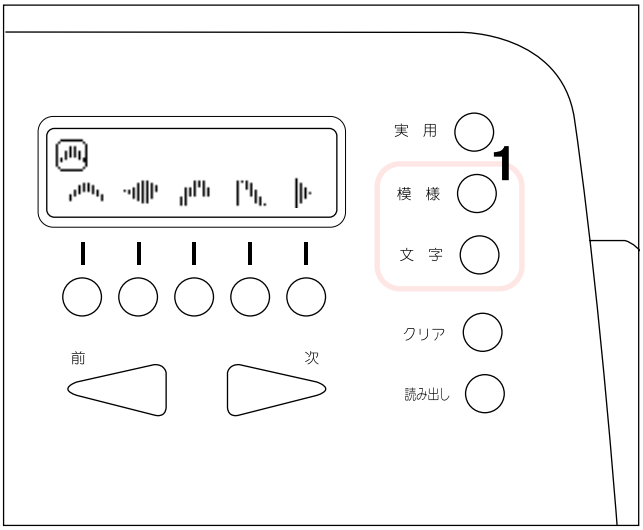
1 模様または、文字ぬいボタンを押します。

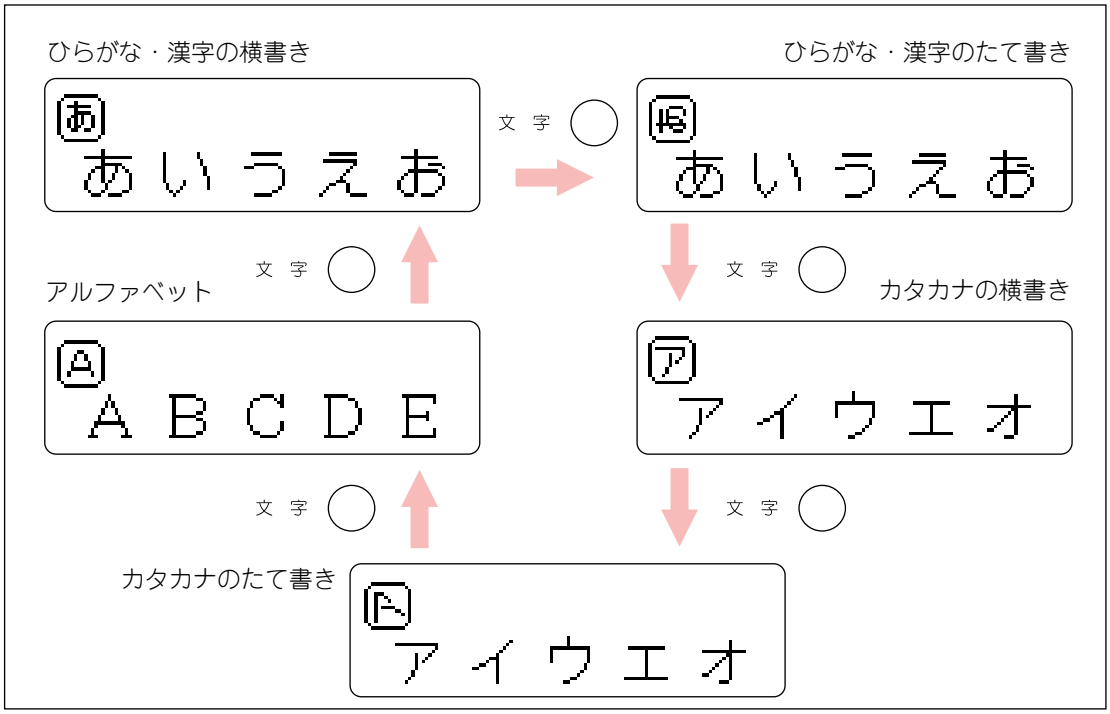
●模様ぬいボタンを押した場合：

案内窓の左上に と表示され、下段に、模様ぬいの最初の５つの模様が表示されます。

●文字ぬいボタンを押した場合：

ボタンを押すごとに下図のように案内窓の左上の表示が変わって、選べる文字の種類が切りかわります。
文字ぬいボタンを押して、ぬいたい文字の種類を選んでください。

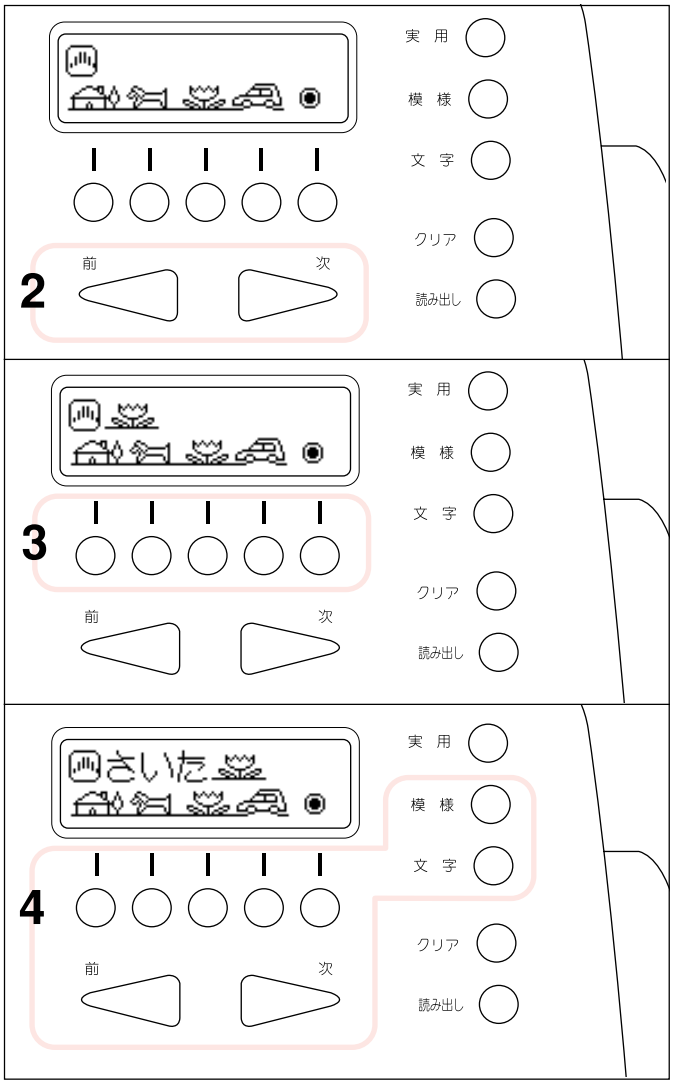




2 ぬいたい模様・文字が表示されるまで、次または前ボタンを押します。
模様、文字の配列は、トップカバー内側やこの手びきの44ページにある「ぬい模様一覧」を参照ください。

3 ぬいたい模様、文字の下の機能ボタンを押します。
記憶される模様の１単位が、44ページ「ぬい模様一覧、模様ぬい」に表示してあります。（文字の場合は、１文字が記憶されます。）

4 同じようにして、次にぬいたい模様・文字を選んでいきます。
記憶した模様・文字が、案内窓の上段に順番に表示されていきます。
表示しきれなくなったときは、先頭の部分が画面から消えていきます。（画面から消えてもミシンは、選んだ順番を記憶しています。次ページ「模様・文字の確認」参照）



模様・文字は50個まで記憶することができます。

止めぬい（◉）以外の模様を最後に記憶させると、ミシンは、記憶した模様・文字をくり返してぬいます。

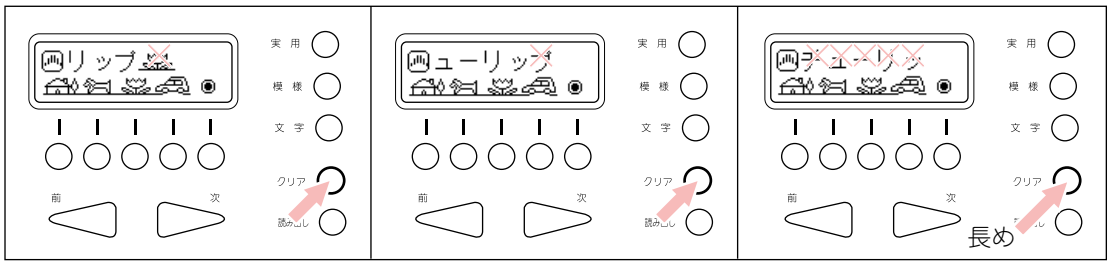
止めぬい（◉）または、文字を最後に記憶させると、ミシンは、記憶した模様・文字を一組ぬい終えると自動的に止まります。（35ページ「模様・文字のぬい方」参照）

●模様・文字の取り消し

1 組み合わせた模様・文字を取り消したいときは、クリアボタンを押すと、最後に選んだ模様・文字が取り消されます。

2 クリアボタンを押すごとに、後ろから一つずつ取り消されていきます。

3 長めに押すとまとめて取り消されます。



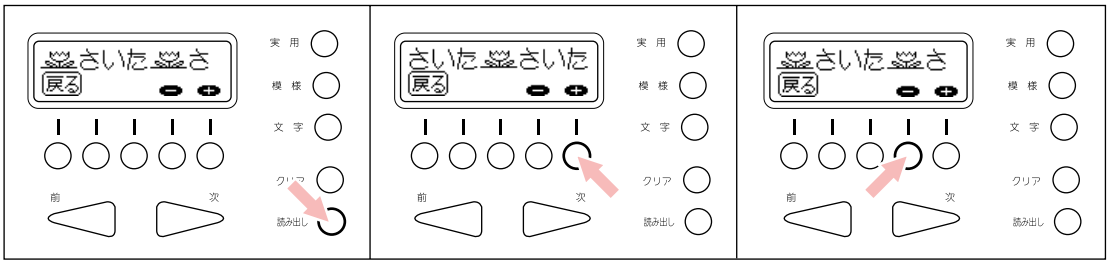
●模様・文字の確認

記憶させた模様・文字が表示しきれなくなった場合は、先頭の部分が画面から消えていきますが、ミシンは、この順番を記憶しています。
読み出しボタンで、記憶させた模様・文字を確認することができます。

1 読み出しボタンを押すと、最初に記憶させた模様・文字から順番に表示されます。

2 ⊕の下の機能ボタンを押すと、次に選んだ模様・文字が表示されます。ボタンを押すごとに次の模様・文字を１つずつ表示していきます。

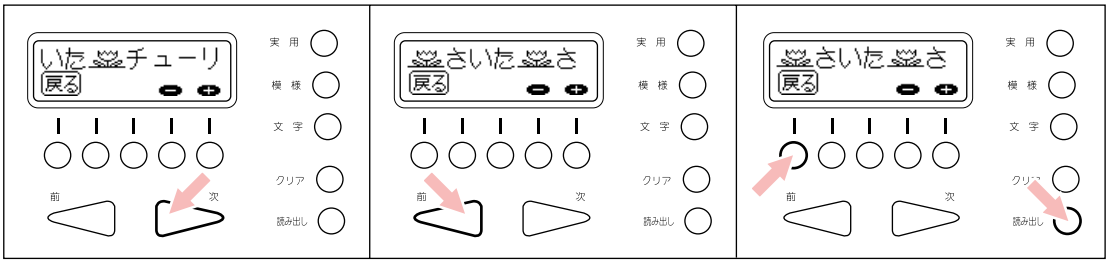
3 ⊖の下の機能ボタンを押すと、１つずつ前に戻ります。



4 次ボタンを押すと、表示していた次の模様・文字から表示されます。

5 前ボタンを押すと、表示していた前の模様・文字に変わります。

6 戻るの下の機能ボタンか、読み出しボタンをもう１度押すと、確認する前の状態に戻ります。



最後まで表示した状態で、⊕や、次ボタンを押すと、「ピピピッ」となります。
同様に最初の部分を表示して、⊖や、前ボタンを押しても「ピピピッ」となります。

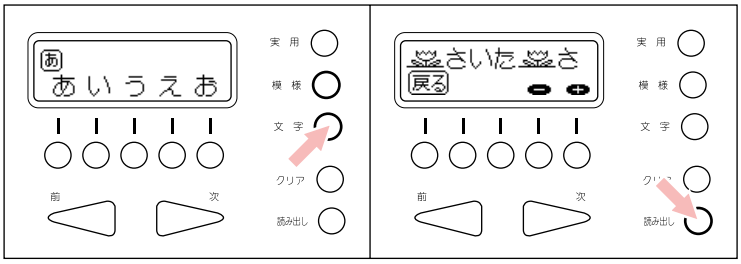
模様・文字の確認状態のまま、スタート・ストップボタンを押すと、確認する前の状態に戻ると同時に、ぬい始めます。
（模様または文字ぬいボタンでも戻ります。）

●模様・文字の呼び出し

模様・文字の組み合わせは、一度記憶させると、基本ぬいや実用ぬいをぬった後からでも呼び出せます。

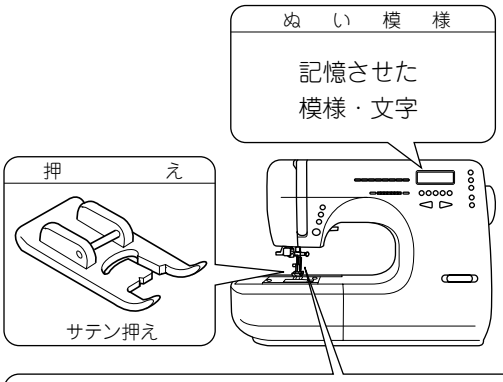
1 基本、実用ぬいをぬった後、模様または、文字ボタンを押します。

2 何も記憶させないで、読み出しボタンを押すと、前に記憶させた模様・文字が呼び出され、「模様・文字の確認」と同じ状態になります。

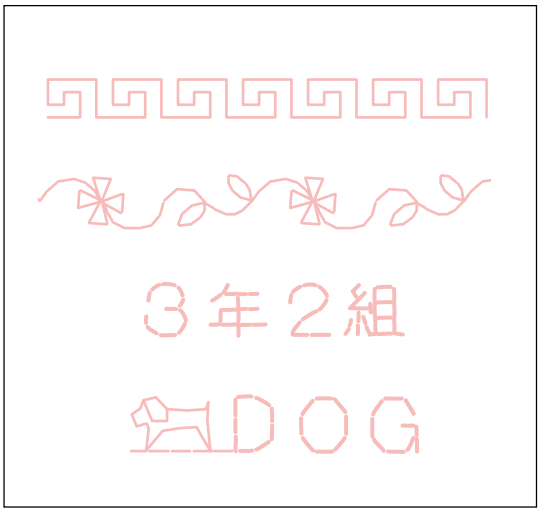


ご注意：
読み出しボタンを押す前に、模様・文字を選ぶと、新たに記憶が開始され、前に組み合わせた模様・文字は削除されます。

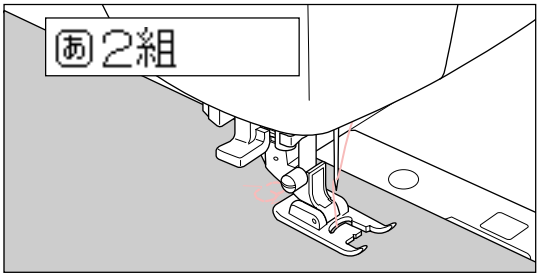
模様・文字のぬい方



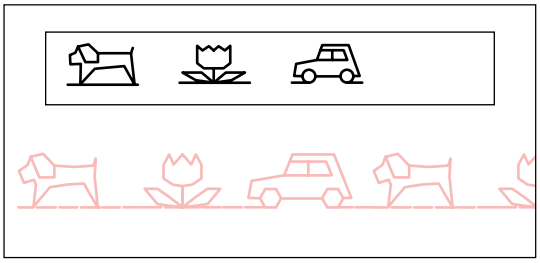
文字ぬいのときの針は、11番のニット針が適しています。
また、糸は、細めのものをお使い下さい。



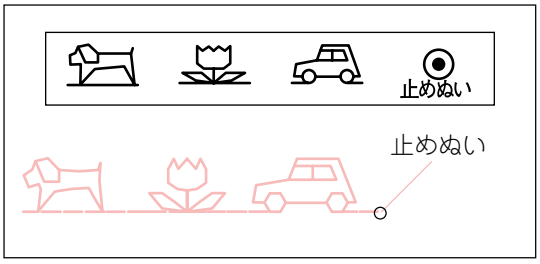
模様・文字を記憶させた後、布をセットして、スタート・ストップボタンを押します。
ミシンは記憶した模様・文字を順番にぬっていきます。
ぬい終わった模様・文字は、案内窓から消えていきます。



順番の最後に模様ぬい（止めぬい ⦿ を除く）を記憶させると、ミシンは、スタート・ストップボタンでストップさせるまで、同じ組み合わせを繰り返しぬいます。

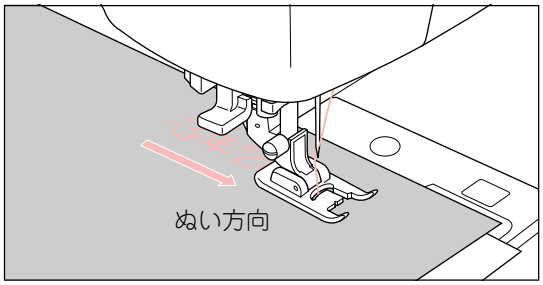


順番の最後が文字ぬい、止めぬい（⦿） のときは、ミシンは組み合わせを一組ぬうと、自動的に止まります。
＊順番の最初や途中に止めぬいを入れても、ストップしません。

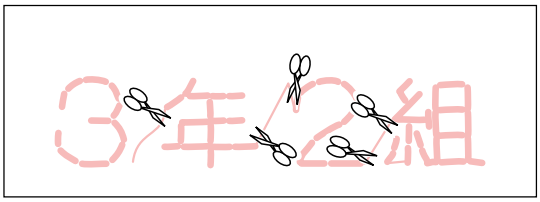


電源を切ると、記憶させた模様・文字は、すべて削除されます。

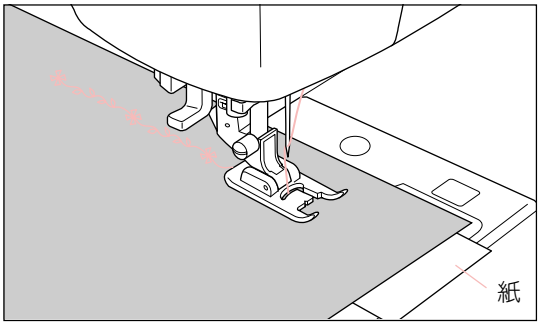
ひらがな・漢字、カタカナの横書きとアルファベットは、文字を横に倒した状態で、たて方向にぬい進みます。



文字ぬいの場合、ぬい終わったら、文字と文字の間の余分な上糸を切り取って仕上げます。



薄い布、伸縮性のある布には、下に紙をしいてぬってください。

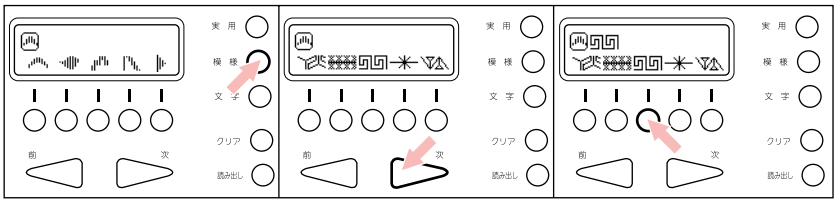


●例

（電源スイッチを入れた状態からの手順です。）

単独模様ぬい

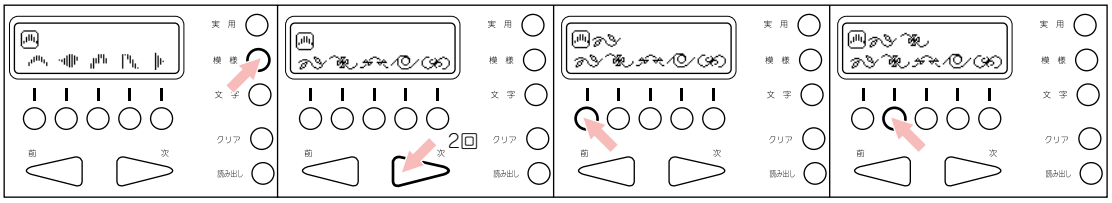
同じ模様を続けてぬいます。



1. 模様ぬいボタンを押します。
2. 次ボタンを押します。
3. 模様を選びます。

装飾模様ぬい

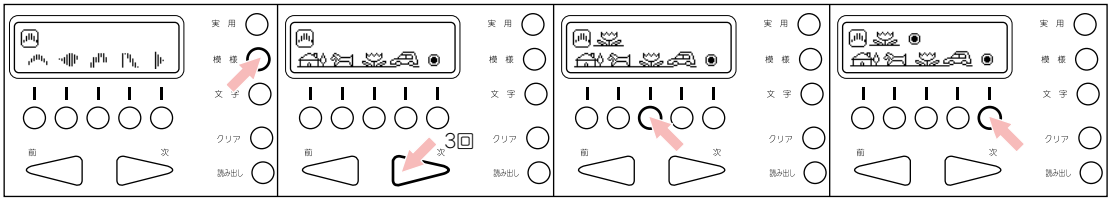
組み合わせた模様を繰り返しぬいます。



1. 模様ぬいボタンを押します。
2. 次ボタンを2回押します。
3. 模様を選びます。
4. 次の模様を選びます。

ワンポイントぬい

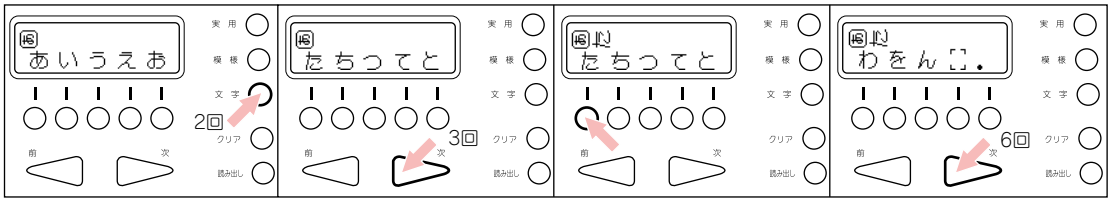
模様を１回ぬって止まります。



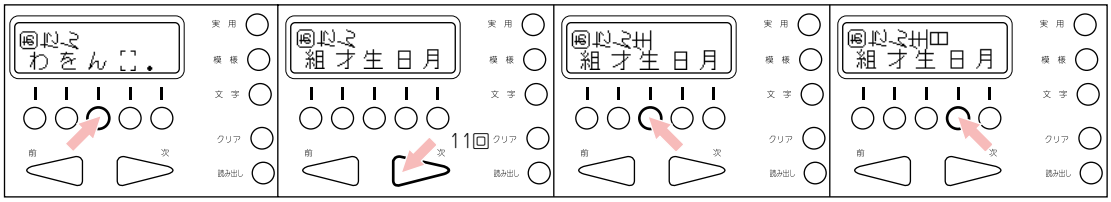
1. 模様ぬいボタンを押します。
2. 次ボタンを3回押します。
3. 模様を選びます。
4. 止めぬいを選びます。

文字ぬい
（たて書き）

組み合わせた文字を１回ぬって止まります。



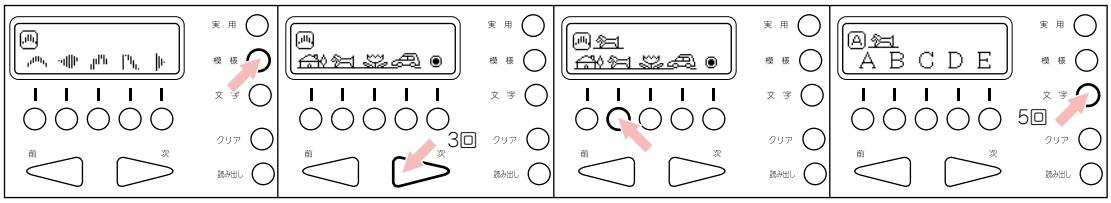
1. 文字ぬいボタンを2回押します。
2. 次ボタンを3回押します。
3. 「た」を選びます。
4. 次ボタンを6回押します。



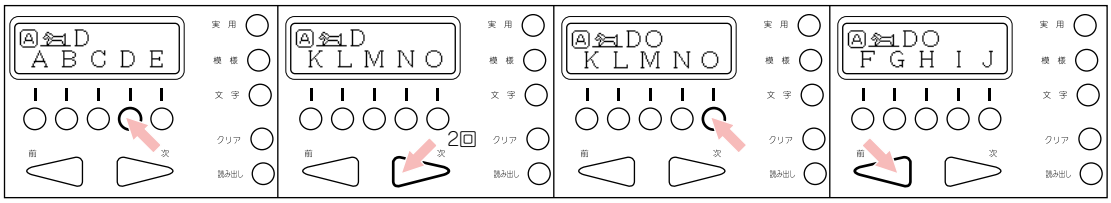
5. 「ん」を選びます。
6. 次ボタンを11回押します。
7. 「生」を選びます。
8. 「日」を選びます。

模様と文字の組み合わせぬい

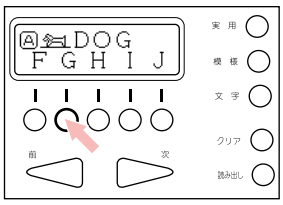
組み合わせた模様と文字を１回ぬって止まります。



1. 模様ぬいボタンを押します。
2. 次ボタンを3回押します。
3. 模様を選びます。
4. 文字ぬいボタンを5回押します。



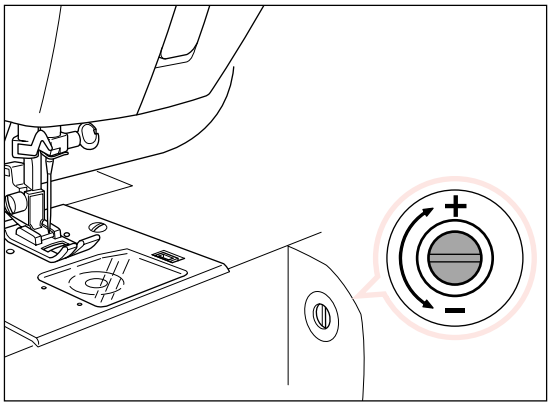
5. 「D」を選びます。
6. 次ボタンを2回押します。
7. 「O」を選びます。
8. 前ボタンを押します。



9. 「G」を選びます。

ぬい目の形の調整

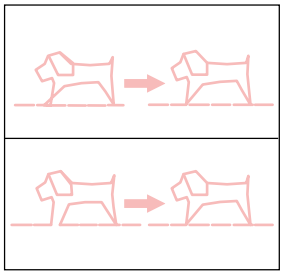
布地の種類や厚さなど、ぬうときの条件によってはぬい目の形がくずれてしまう場合があります。模様ぬい、文字ぬいをしているときに形がくずれるようでしたら、バランス調整ネジを回してきれいなぬい目が得られるように調整してください。



模様ぬい

右の図のようなときは、ネジを（＋）に回します。

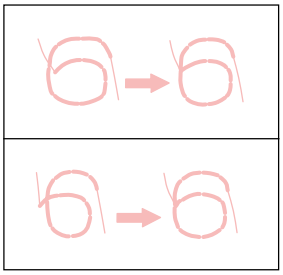
右の図のようなときは、ネジを（−）に回します。



文字ぬい

右の図のようなときは、ネジを（＋）に回します。

右の図のようなときは、ネジを（−）に回します。

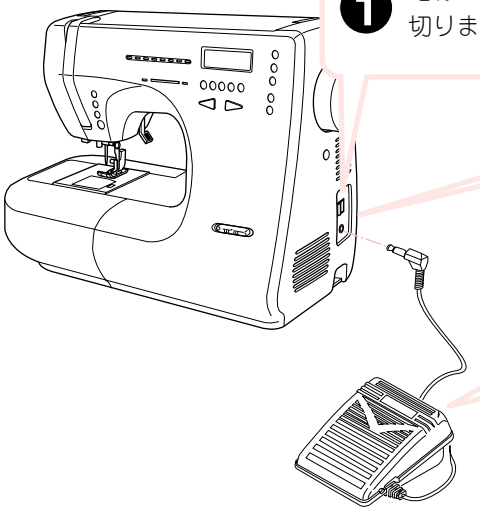


仕様

定格電圧	100V
消費電力	75W
周波数	50Hz/60Hz
ランプ定格	8 V / 2.4 W
寸法	幅：440 mm × 高さ：300 mm × 奥行き：190 mm
重量	10.7 Kg

コントローラーのご案内（別売り）

別売りのコントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。
コントローラーを接続するとスタート・ストップボタンはきかなくなります。



❶ 電源スイッチを切ります。

❷ コントローラーのプラグをミシンのジャックに差し込みます。

❸ コントローラーを足元に置き、電源を入れなおします。
ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。
ペダルをはなすとストップします。
●スピード調節つまみは、最高スピードを調節します。速くしたいときは、「はやい」にセットしてください。

●コントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。
●お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

⚠ **警告：感電、火災を防ぐために；**
コントローラーは、落としたり、座ブトンの下において使用しないでください。

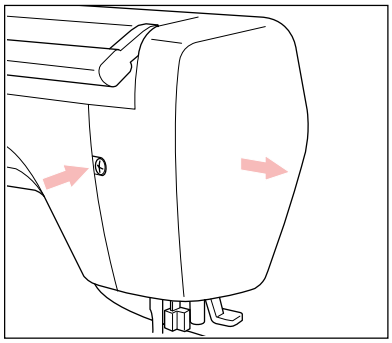
⚠ **注意：ケガ防止のために；**
コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

警告：感電、ケガ防止のために；
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

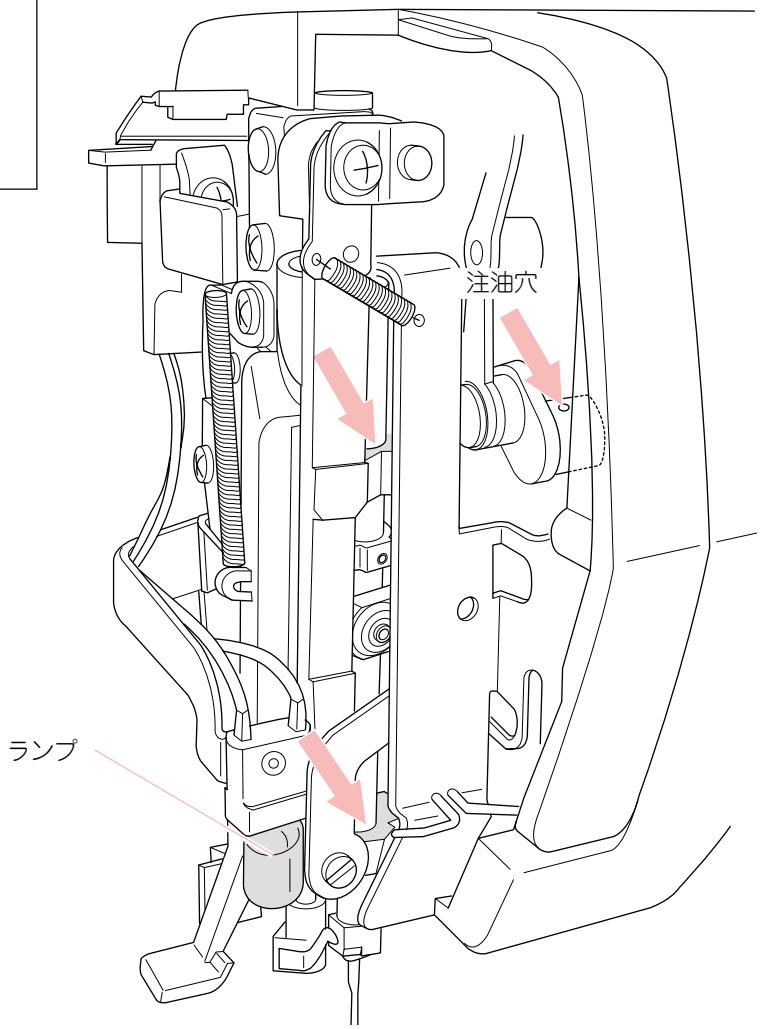
ランプの交換

1 面板後ろの止ネジをゆるめます。
2 面板を左に引いて取りはずします。
3 ランプを引き抜きます。
●ランプはミシンをお買い上げの販売店でお求めください。

注意：ケガ防止のために；
長時間使用していると、ランプが熱くなりやけどをする恐れがあります。電源プラグを抜いて十分冷えてから交換してください。



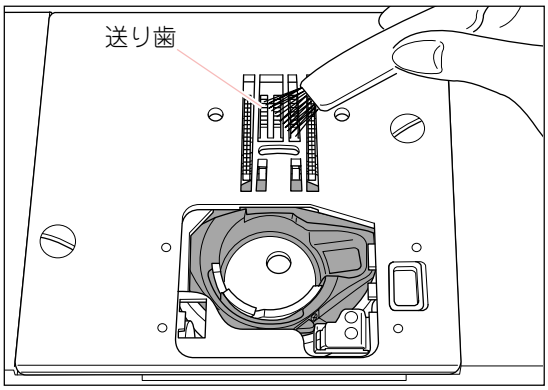
このミシンは特に注油の必要はありませんが、数カ月以上ご使用にならないときは、右図の矢印のところに油をさしておいてください。
● かまやボビンケースには、油をささないでください。



警告：感電、ケガ防止のために；
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

●かまと送り歯の掃除

糸くずやほこりがたまると、ぬい調子を悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

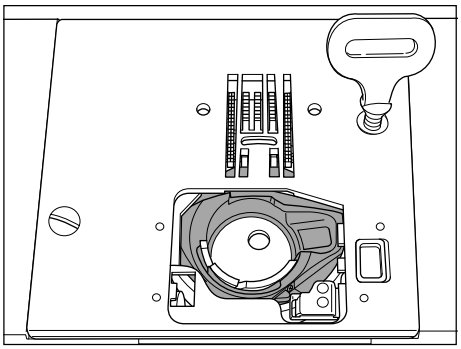


＊ ボビンケースの掃除

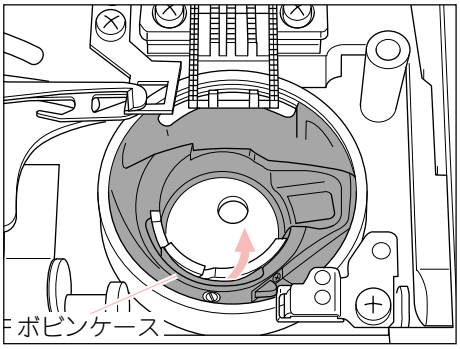
ボビンカバーとボビンを取りはずし、ブラシなどで掃除してください。

＊ 外がまと送り歯の掃除（針板のはずし方）

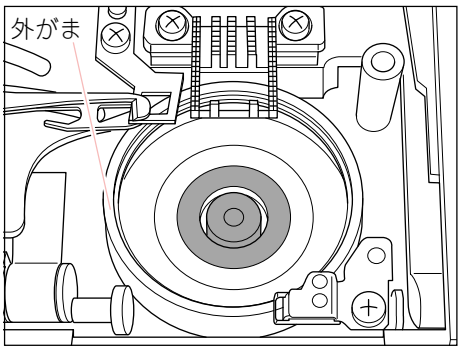
1 針と押えを取りはずします。ボビンカバーとボビンを取りはずします。ねじをはずし、針板を取りはずします。



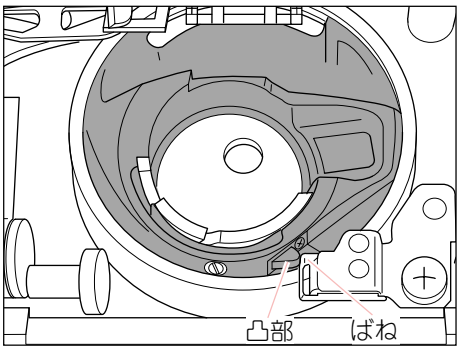
2 ボビンケースの手前を上に持ち上げて取り出します。



3 外がまと送り歯のまわりを掃除します。
●掃除機を使うときれいになります。
ボビンケースのよごれはかわいた布でかるくふき取ります。



4 ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのばねに当たるようにします。



お知らせメッセージ

ミシンが正しくない状態でスタートしようとしたときや、間違った操作をしたときには、ピピピッと電子音がなってお知らせ画面にメッセージが表示されます。

メッセージ	原因	処置	参照ページ
押えを下げて下さい	押えを上げたままスタートさせようとしている	布地を入れ、押えを下げてぬってください	7, 16
上糸または下糸をかけなおして下さい	上糸が無くなったか、糸のかけ方がおかしい（下糸が無くなっても表示される場合があります）	上糸または下糸を正しくかけなおしてください	11, 12
模様・文字を選んで下さい	模様・文字ぬいで何も記憶させないままスタートしようとしている	模様・文字を選んで１つ以上選んでください	32
押えを上げて、セットしなおして下さい	ボタンホールをぬい終わったのに、もう一度スタートさせようとしている。	押えを上げ 、ボタンホール押えをぬい始めの位置に正しくセットしてから押えを下げます。	28
これ以上　選ぶことができません	記憶させた模様・文字が50個をこえてしまった	記憶させる模様・文字は50個以内にしてください	33
返しぬいボタンをはなして下さい	返しぬいボタンを押したまま電源スイッチを入れたか、糸からみなどでミシンが緊急停止したときに返しぬいボタンが押されたままである	返しぬいボタンをはなしてください	7
スタート・ストップボタンをはなして下さい	スタート・ストップボタンを押したまま電源スイッチを入れたか、糸からみなどでミシンが緊急停止したときにスタート・ストップボタンが押されたままである	スタート・ストップボタンをはなしてください	7
針上下ボタンをはなして下さい	針上下・クイックスローボタンを押したまま電源スイッチを入れた	針上下・クイックスローボタンをはなしてください	7
糸切りボタンをはなして下さい	糸切りボタンを押したまま電源スイッチを入れた	糸切りボタンをはなしてください	7
フットコントローラーが接続されています	フットコントローラー（別売り）が接続されているのに、スタート・ストップボタンを押した	コントローラーで操作するか、コントローラーをはずしてください	39
フットコントローラーをはなして下さい	フットコントローラー（別売り）のペダルを踏んだまま電源スイッチを入れたか、止めぬい、文字ぬい、ボタンホールぬいをぬい終わったのにペダルを踏んでいる。または糸からみなどでミシンが緊急停止したときにペダルが踏まれたままである	ペダルをはなしてください	39
電源を切って糸をかけなおして下さい	糸切り装置のエラー（番手が30番以下の太い糸や、特殊な糸を使っている）	電源スイッチを切ってボビンを入れ直してください（30番以下の太い糸や、特殊な糸には糸切りボタンを使わないでください）	6, 11
システムの異常です	コンピュータのエラー	電源スイッチを入れ直してください（それでも同じメッセージが出る場合は、修理・サービスをお申しつけください）	6

不調の原因と処置

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	●糸のかけ方がまちがっている ●ボビンケースに糸がからまっている ●針の取りつけ方がまちがっている ●布地に対して糸が弱すぎる	正しくかけ直します からんだ糸を取りのぞきます 正しくつけ直します 布地と糸、針の関係を合わせます	12 41 9 19
下糸が切れる	●ボビンの入れ方がまちがっている ●ボビンケースに糸がからまっている ●かまにゴミがたまっている	正しく入れ直します からんだ糸を取りのぞきます 掃除します	11 41 41
ぬい目がとぶ	●針の取りつけ方がまちがっている ●針が曲がっているか、先がつぶれている ●布地に対して糸と針が合っていない	正しくつけ直します 針を取りかえます 布地と糸、針の関係を合わせます	9 9 19
ぬい目にしわがよる	●糸のかけ方がまちがっている ●ボビンの入れ方がまちがっている ●針の先がつぶれている	正しくかけ直します 正しく入れ直します 針を取りかえます	12 11 9
ぬい目に輪ができる	●ボビンの入れ方がまちがっている ●糸のかけ方がまちがっている	正しく入れ直します 正しくかけ直します	11 12
糸通しができない	●針が上に上がっていない ●針の取りつけ方がまちがっている ●針が曲がっている	針上下ボタンで針を上に上げます 正しくつけ直します 針を取りかえます	7 9 9
布地を送らない	●ぬい目の長さが布地に合っていない ●送り歯にほこりがかたまっている	ぬい目の長さを調節します 掃除します	15 41
針が折れる	●布地を無理に引っ張っている ●ぬい模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている） ●針の取りつけ方がまちがっているか、しめ方がゆるい ●布に対して針が細すぎる	手は布地にそえるだけにします ぬい模様にあった押えを取りつけます 正しくつけ直します 布地と糸、針の関係を合わせます	16 20～ 9 19
回転が重く音が高い 糸切りの切れが悪い	●かまの内部や送り歯にごみがたまっている	針板をはずして掃除します	41
ミシンが動かない	●電源プラグの差し込みが不十分である ●電源スイッチが入っていない ●コントローラー（別売り）が取り付けてある ●糸巻き軸が右へ押されている ●押えが上がっている ●ボタンホールぬいで： ボタンホールレバーがきちんと下がっていない ボタンホール押えが取り付けられていない	しっかり差し込みます スイッチを入れます コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします 左へもどします 押えを下げます きちんと下げます ボタンホール押えを取り付けます	6 6 39 10 7 28, 30 28, 30

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（裏表紙参照）におたずねください。

ぬい模様一覧

基本ぬい（選び方は、14ページ参照）

ぬい模様										
用途	地ぬい 左基線	地ぬい 中基線	ファスナー付け	地ぬい左 返しぬい付	ジグザグ ぬい	ふちかがりぬい	まつり ぬい	伸縮強化（直線）	ふちかがり ぬい	ボタン ホール
押え	ジグザグ	ジグザグ	ファスナー	ジグザグ	ジグザグ サテン	ふちかがり（幅最大）	ジグザグ	ジグザグ	ふちかがり ジグザグ	ボタン ホール
参照ページ	20	20	24	20	21	22	23	21	22	28

実用ぬい（選び方は、12ページ参照）

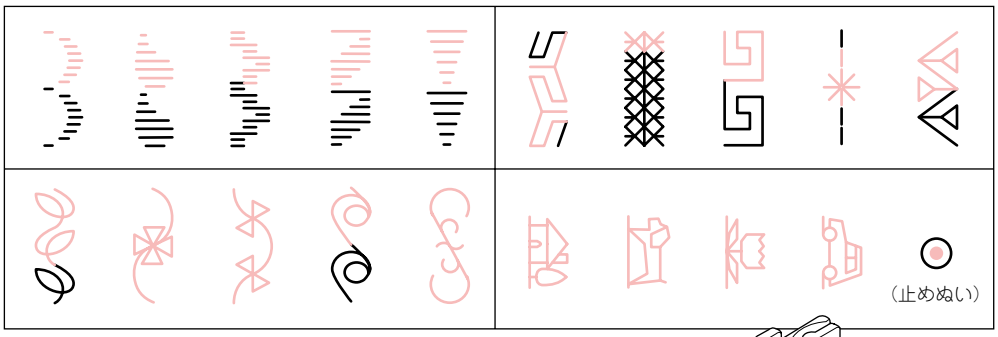
ぬい模様						
用途	まつり ぬい	つくろい ぬい	ふちかがり ぬい	伸縮 ぬい	伸縮強化 ぬい	ふちかがり ぬい
押え	ジグザグ	ジグザグ	ジグザグ	ジグザグ	ジグザグ	ふちかがり ジグザグ
参照ページ	23	21	22	20	21	22

ぬい模様				
用途	パッチワーク	スカラップ	クロス ステッチ	アイレット
押え	ジグザグ	ジグザグ	サテン	サテン
参照ページ	26	27	27	26

ぬい模様		
用途	かん止め	ボタンホール
押え	ボタンホール	ボタンホール
参照ページ	30	28

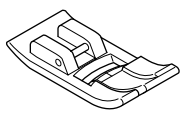
模様ぬい（選び方、組み合わせ方は、32ページ参照）

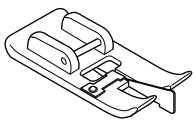
赤で表示された部分が、模様を選んだときにミシンに記憶される１単位です。

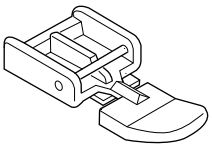


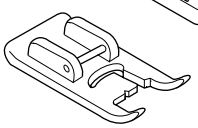
押え
サテン

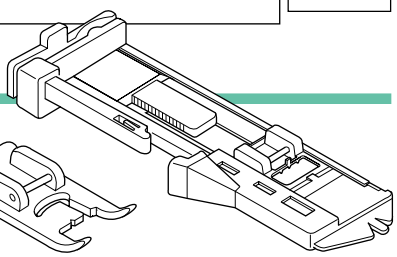
押え


ジグザグ押え


ふちかがり押え


ファスナー押え


サテン押え


ボタンホール押え

●文字ぬい（選び方、組み合わせ方は、32ページ参照）

あ ひらがな・漢字（横書き）

六	一	火	組	小	保	5	0	ぱ	ば	だ	ざ	が	つ	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
七	二	水	才	中	育	6	1	ぴ	び	ぢ	じ	ぎ	ゃ	を	り	ゆ	み	ひ	に	ち	し	き	い
八	三	木	生	学	園	7	2	ぷ	ぶ	づ	ず	ぐ	ゅ	ん	る	よ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
九	四	金	日	校	幼	8	3	ぺ	べ	で	ぜ	げ	ょ	[ ]	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
十	五	土	月	年	稚	9	4	ぽ	ぼ	ど	ぞ	ご	ー	・	ろ		も	ほ	の	と	そ	こ	お

ぬい方向

縦 ひらがな・漢字（たて書き）

六	一	火	組	小	保	5	0	ぱ	ば	だ	ざ	が	つ	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
七	二	水	才	中	育	6	1	ぴ	び	ぢ	じ	ぎ	ゃ	を	り	ゆ	み	ひ	に	ち	し	き	い
八	三	木	生	学	園	7	2	ぷ	ぶ	づ	ず	ぐ	ゅ	ん	る	よ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
九	四	金	日	校	幼	8	3	ぺ	べ	で	ぜ	げ	ょ	[ ]	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
十	五	土	月	年	稚	9	4	ぽ	ぼ	ど	ぞ	ご	ー	・	ろ		も	ほ	の	と	そ	こ	お

ぬい方向

ア カタカナ（横書き）

5	0	パ	バ	ダ	ザ	ガ	ツ	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
6	1	ピ	ビ	ヂ	ジ	ギ	ャ	ヲ	リ	ユ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
7	2	プ	ブ	ヅ	ズ	グ	ュ	ン	ル	ヨ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
8	3	ペ	ベ	デ	ゼ	ゲ	ョ	[ ]	レ		メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
9	4	ポ	ボ	ド	ゾ	ゴ	ー	・	ロ		モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ

ぬい方向

ア カタカナ（たて書き）

5	0	パ	バ	ダ	ザ	ガ	ツ	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
6	1	ピ	ビ	ヂ	ジ	ギ	ャ	ヲ	リ	ユ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
7	2	プ	ブ	ヅ	ズ	グ	ュ	ン	ル	ヨ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
8	3	ペ	ベ	デ	ゼ	ゲ	ョ	[ ]	レ		メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
9	4	ポ	ボ	ド	ゾ	ゴ	ー	・	ロ		モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ

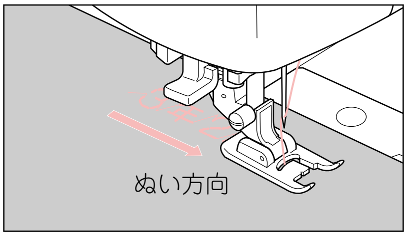
ぬい方向

A アルファベット

5	0	Z	U	P	K	F	A
6	1	[ ]	V	Q	L	G	B
7	2	・	W	R	M	H	C
8	3		X	S	N	I	D
9	4		Y	T	O	J	E

ぬい方向

ひらがな・漢字、カタカナの横書きとアルファベットは、文字を横に倒した状態で、たて方向にぬい進みます。



押え
サテン

- [ ] は、1文字分あけるときに使います。（実際には、1針ぬい進むだけです。）
- ひらがな・漢字、カタカナの横書きとたて書きとでは、ぬい上がりの文字の形が少し異なります。

修理サービス要領

◎修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。
   内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

◎修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常 8 年間は、必要に応じて当社よりご購入店に供給できるよう体制を整えております。

◎無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用説明書に基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
   イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
   ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
   ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
   ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
   ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。

150年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。修理サービスについてご不審の点がある場合には下記にお申し越ください。

お客様相談係

株式会社 シンガーハッピージャパン　電話：03-3837-1865

SINGER®
シンガーミシン

株式会社 シンガーハッピージャパン

〒110-0016　東京都台東区台東 2 丁目 9 番 5 号
電話　03-3837-1865

® はTHE SINGER COMPANYの登録商標です。

33332 A5 9790